

豊 後 府 内 16

(第3分冊)

一庄の原佐野線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(5)一

(中世大友府内町跡第41・69・75・77次調査区)

2010

大分県教育庁埋蔵文化財センター

豊 後 府 内 16

(第3分冊)

—庄の原佐野線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(5)—

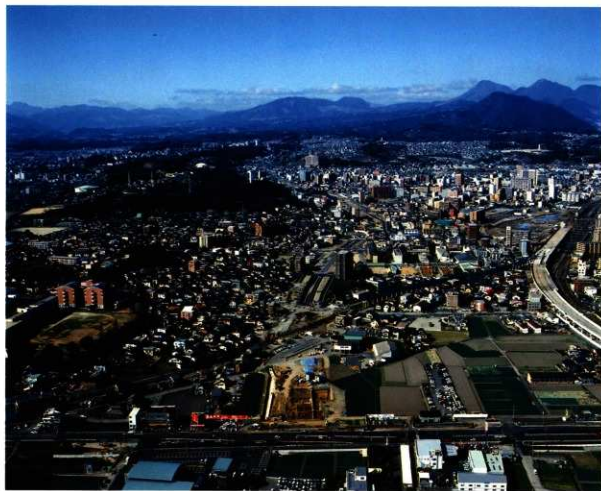
(中世大友府内町跡第41・69・75・77次調査区)

2010

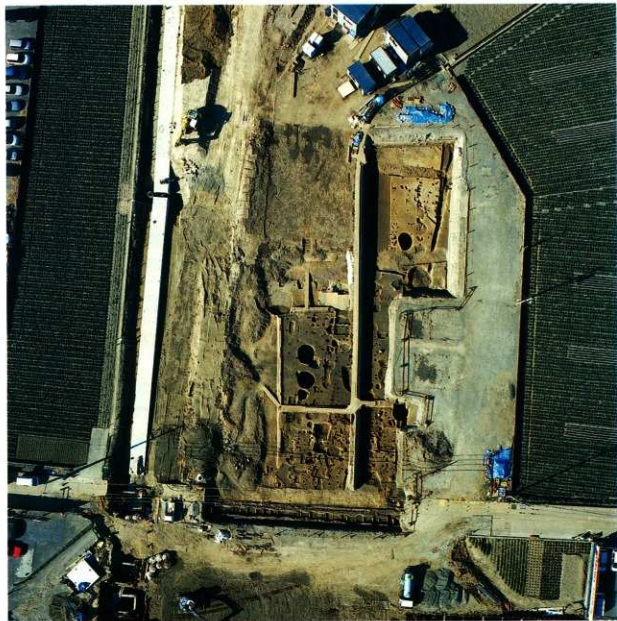
大分県教育庁埋蔵文化財センター



調査区と中世大友府内町跡（南から）



調査区と中世大友府内町跡（東から）



大友69次・75次調査区全景



SK052出土遺物

例 言

- 1 本書は、大分県大分市六坊北町に所在する中世大友府内町跡第75次調査の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、緊急地方道路整備事業庄の原佐野線道路改築工事に伴い、大分県土木建築部大分駅周辺総合整備事務所の依頼を受けて、大分県教育庁埋蔵文化財センターが平成18年11月20日～平成19年3月12日の間実施した。
- 3 整理作業は、平成20、21年度に大分県教育庁埋蔵文化財センターで行い、報告書刊行にいたった。
- 4 遺構の実測・写真撮影は、大分県教育庁埋蔵文化財センター職員の管理・監督のもとに、「大友75次発掘調査支援委託業務」の受注業者が行った。
- 5 遺物実測、遺物・遺構トレースは、調査員及び大分県教育庁埋蔵文化財センター整理作業員が行った。一部の遺物実測と遺物トレースは、大分県教育庁埋蔵文化財センター職員の管理・監督のもとに、平成21年度「埋蔵文化財センターが実施する埋蔵文化財発掘調査に係る整理作業委託」の受注業者が行った。
- 6 遺物の写真撮影は河野真幸（大分県教育庁埋蔵文化財センター嘱託）が行なった。
- 7 本遺跡出土遺物、実測図、写真は、大分県教育庁埋蔵文化財センター（大分市大字中判田字ビワノ門1977）に保管している。
- 8 本書で使用する方位はいずれも座標北である。
- 9 本書で使用する遺構略号は、以下の通りとする。
S X：土器一括埋納遺構、S K：土坑、S E：井戸、S D：溝、
S B：竪穴建物跡、掘立柱建物跡、S P：柱穴
- 10 本書で使用した出土遺物の分類については、以下の文献による。
青花 小野正敏「15～16世紀の染付碗・皿の分類と年代」（『貿易陶磁研究』No.2 1982）
青磁 上田秀夫「15～16世紀の青磁碗の分類について」（『貿易陶磁研究』No.2 1982）
白磁 森田 勉「15～16世紀の白磁の分類について」（『貿易陶磁研究』No.2 1982）
備前系陶器 乗岡 実「中世備前焼（壺）の編年案」・「備前焼播鉢の編年案」（『第3回中近世備前焼研究会資料』所収 2000）
乗岡 実「近世備前焼播鉢の編年案」（『岡山城三之曲輪跡一表町一丁目地区再開発ビル建設に伴う発掘調査一』岡山市教育委員会 2003）
中国南部産焼締陶器鉢 吉田 寛「中世大友府内町跡出土の産地不明焼締陶器について」（『貿易陶磁研究』No.28 2003）
京都系土師器 塩地潤一「大友領国内における京都系土師器の分布とその背景」（『博多研究会誌』第6号 1998）
坂本嘉弘「中世大友城下町跡出土の土師質土器編年」（『豊後府内』1 大分県教育庁埋蔵文化財センター 2005）
- 11 本書の執筆・編集は、後藤一重が行った。

目 次

第1節	はじめに	1
1	調査の経過	1
第2節	調査の概要	2
1	基本層序と調査区	2
2	土器一括埋納遺構	8
3	土坑	10
4	井戸	122
5	溝	143
6	竪穴建物跡	156
7	掘立柱建物跡	158
8	その他の遺構	160
9	その他の出土遺物	200
(1)	各区の出土遺物	200
(2)	土製品	233
(3)	玉類	233
(4)	金属製品	234
(5)	銭貨	236
(6)	古代以前の土器	243
第3節	まとめ	244
1	中世の竪穴建物について—大分県下の例から—	244
遺物観察表		257
土器観察表		259
土製品観察表		284
石製品観察表		285
玉類観察表		287
金属製品観察表		288
遺構写真図版		293
遺物写真図版		343

插图 目 次

第1图	大友75次調査区位置图	1	第40图	大友75次SK069出土遺物	32
第2图	大友75次調査区土層图	2	第41图	大友75次SK073	33
第3图	大友75次第I面遺構配置图(1)	5	第42图	大友75次SK073出土遺物	33
第4图	大友75次第II面遺構配置图(2)	6	第43图	大友75次SK074出土遺物	33
第5图	大友75次第III面遺構配置图(3)	7	第44图	大友75次SK074	34
第6图	大友75次SX009	8	第45图	大友75次SK077出土遺物	34
第7图	大友75次SX009出土遺物(1)	8	第46图	大友75次SK083	35
第8图	大友75次SX009出土遺物(2)	9	第47图	大友75次SK095	36
第9图	大友75次SK011	10	第48图	大友75次SK095出土遺物(1)	36
第10图	大友75次SK011出土遺物	10	第49图	大友75次SK095出土遺物(2)	36
第11图	大友75次SK012	12	第50图	大友75次SK095出土遺物(3)	37
第12图	大友75次SK012出土遺物(1)	13	第51图	大友75次SK098	37
第13图	大友75次SK012出土遺物(2)	14	第52图	大友75次SK098出土遺物	38
第14图	大友75次SK012出土遺物(3)	15	第53图	大友75次SK106	39
第15图	大友75次SK012出土遺物(4)	16	第54图	大友75次SK106出土遺物(1)	39
第16图	大友75次SK012出土遺物(5)	17	第55图	大友75次SK106出土遺物(2)	40
第17图	大友75次SK012出土遺物(6)	18	第56图	大友75次SK124	41
第18图	大友75次SK012出土遺物(7)	19	第57图	大友75次SK124出土遺物	41
第19图	大友75次SK012出土遺物(8)	19	第58图	大友75次SK130	42
第20图	大友75次SK039	20	第59图	大友75次SK130出土遺物	43
第21图	大友75次SK039出土遺物	20	第60图	大友75次SK133	44
第22图	大友75次SK045	21	第61图	大友75次SK133出土遺物	44
第23图	大友75次SK045出土遺物	21	第62图	大友75次SK147出土遺物	44
第24图	大友75次SK048	22	第63图	大友75次SK147	45
第25图	大友75次SK048出土遺物	23	第64图	大友75次SK148	46
第26图	大友75次SK050	24	第65图	大友75次SK148出土遺物	46
第27图	大友75次SK050出土遺物(1)	24	第66图	大友75次SK152、SK265、SK357	47
第28图	大友75次SK051	24	第67图	大友75次SK152、SK265、SK357出土遺物	47
第29图	大友75次SK052	26	第68图	大友75次SK153	48
第30图	大友75次SK052遺物出土状況	26	第69图	大友75次SK153出土遺物(1)	49
第31图	大友75次SK052出土遺物(1)	27	第70图	大友75次SK153出土遺物(2)	50
第32图	大友75次SK052出土遺物(2)	28	第71图	大友75次SK171	51
第33图	大友75次SK052出土遺物(3)	29	第72图	大友75次SK171出土遺物	51
第34图	大友75次SK053	30	第73图	大友75次SK178	51
第35图	大友75次SK053出土遺物	30	第74图	大友75次SK185	52
第36图	大友75次SK054出土遺物	31	第75图	大友75次SK185出土遺物	52
第37图	大友75次SK062	32	第76图	大友75次SK187出土遺物	52
第38图	大友75次SK062出土遺物	32	第77图	大友75次SK187	53
第39图	大友75次SK069	32	第78图	大友75次SK188、SK381、SK383	53

插图目次

第79图 大友75次SK188、SK381、SK383出土遗物	54	第118图 大友75次SK294出土遗物	73
第80图 大友75次SK189	55	第119图 大友75次SK302	74
第81图 大友75次SK189出土遗物	55	第120图 大友75次SK302出土遗物	74
第82图 大友75次SK191	55	第121图 大友75次SK305	75
第83图 大友75次SK191出土遗物	56	第122图 大友75次SK305出土遗物	75
第84图 大友75次SK204	56	第123图 大友75次SK321	75
第85图 大友75次SK204出土遗物	56	第124图 大友75次SK323	76
第86图 大友75次SK205	57	第125图 大友75次SK323出土遗物	76
第87图 大友75次SK205出土遗物	57	第126图 大友75次SK400	76
第88图 大友75次SK213、SK194	58	第127图 大友75次SK414	77
第89图 大友75次SK213出土遗物	59	第128图 大友75次SK414出土遗物	77
第90图 大友75次SK194出土遗物	59	第129图 大友75次SK423	77
第91图 大友75次SK217	60	第130图 大友75次SK436	78
第92图 大友75次SK217出土遗物	60	第131图 大友75次SK445	79
第93图 大友75次SK220	60	第132图 大友75次SK445出土遗物	80
第94图 大友75次SK220出土遗物	60	第133图 大友75次SK445及 ψ SK445周刃出土遗物	81
第95图 大友75次SK266	61	第134图 大友75次SK460	82
第96图 大友75次SK266出土遗物	61	第135图 大友75次SK460出土遗物	82
第97图 大友75次SK270	62	第136图 大友75次SK461	84
第98图 大友75次SK270出土遗物	62	第137图 大友75次SK461出土遗物	84
第99图 大友75次SK275	63	第138图 大友75次SK474	85
第100图 大友75次SK275出土遗物	63	第139图 大友75次SK474出土遗物	85
第101图 大友75次SK276	64	第140图 大友75次SK524	86
第102图 大友75次SK276出土遗物	64	第141图 大友75次SK524出土遗物	86
第103图 大友75次SK283	64	第142图 大友75次SK527	86
第104图 大友75次SK283出土遗物	64	第143图 大友75次SK527出土遗物	87
第105图 大友75次SK289、SK312、SK348	65	第144图 大友75次SK530	87
第106图 大友75次SK289、SK312、SK348出土遗物	66	第145图 大友75次SK530出土遗物(1)	88
第107图 大友75次SK290	67	第146图 大友75次SK530出土遗物(2)	88
第108图 大友75次SK290出土遗物	67	第147图 大友75次SK536出土遗物	88
第109图 大友75次SK291	68	第148图 大友75次SK536	89
第110图 大友75次SK291出土遗物(1)	68	第149图 大友75次SK537、SK596	89
第111图 大友75次SK291出土遗物(2)	69	第150图 大友75次SK574	90
第112图 大友75次SK292	71	第151图 大友75次SK583出土遗物	90
第113图 大友75次SK292出土遗物(1)	71	第152图 大友75次SK583	90
第114图 大友75次SK292出土遗物(2)	72	第153图 大友75次SK584	91
第115图 大友75次SK293	72	第154图 大友75次SK584出土遗物	91
第116图 大友75次SK293出土遗物	72	第155图 大友75次SK592	92
第117图 大友75次SK294	73	第156图 大友75次SK592出土遗物	92

插图 目 次

第157图 大友75次SK601	93	第196图 大友75次SK739、SK764	118
第158图 大友75次SK601出土遺物(1)	95	第197图 大友75次SK739出土遺物	118
第159图 大友75次SK601出土遺物(2)	96	第198图 大友75次SK764出土遺物	118
第160图 大友75次SK601出土遺物(3)	97	第199图 大友75次SK182	119
第161图 大友75次SK601出土遺物(4)	98	第200图 大友75次SK182出土遺物(1)	120
第162图 大友75次SK601出土遺物(5)	99	第201图 大友75次SK182出土遺物(2)	121
第163图 大友75次SK601出土遺物(6)	100	第202图 大友75次SE113	122
第164图 大友75次SK602	101	第203图 大友75次SE113出土遺物	123
第165图 大友75次SK602出土遺物	101	第204图 大友75次SE149	124
第166图 大友75次SK613	103	第205图 大友75次SE149出土遺物	125
第167图 大友75次SK613出土遺物	103	第206图 大友75次SE170	127
第168图 大友75次SK614	104	第207图 大友75次SE170出土遺物(1)	128
第169图 大友75次SK614出土遺物	104	第208图 大友75次SE170出土遺物(2)	129
第170图 大友75次SK627、SK631、SP771、SK812	105	第209图 大友75次SE186	130
第171图 大友75次SK627出土遺物	106	第210图 大友75次SE186出土遺物	131
第172图 大友75次SP771出土遺物	106	第211图 大友75次SE206	133
第173图 大友75次SK640	108	第212图 大友75次SE206出土遺物(1)	134
第174图 大友75次SK640出土遺物(1)	108	第213图 大友75次SE206出土遺物(2)	135
第175图 大友75次SK640出土遺物(2)	109	第214图 大友75次SE216	137
第176图 大友75次SK640出土遺物(3)	110	第215图 大友75次SE216出土遺物	138
第177图 大友75次SK660	110	第216图 大友75次SE445	140
第178图 大友75次SK660出土遺物	110	第217图 大友75次SE445出土遺物(1)	141
第179图 大友75次SK676	111	第218图 大友75次SE445出土遺物(2)	142
第180图 大友75次SK676出土遺物	111	第219图 大友75次SD049	144
第181图 大友75次SK691、SK744	112	第220图 大友75次SD049出土遺物(1)	144
第182图 大友75次SK691、SK744出土遺物	113	第221图 大友75次SD049出土遺物(2)	145
第183图 大友75次SK570、SK652	113	第222图 大友75次SD102、SD103、SD104、SD105	146
第184图 大友75次SK662	114	第223图 大友75次SD102、SD103、SD104、SD105出土遺物	147
第185图 大友75次SK694	114	第224图 大友75次SD212	148
第186图 大友75次SK694出土遺物	114	第225图 大友75次SD212出土遺物(1)	149
第187图 大友75次SK700	115	第226图 大友75次SD212出土遺物(2)	150
第188图 大友75次SK700出土遺物	115	第227图 大友75次SD212出土遺物(3)	151
第189图 大友75次SK701	115	第228图 大友75次SD212出土遺物(4)	152
第190图 大友75次SK701出土遺物	115	第229图 大友75次SD212出土遺物(5)	153
第191图 大友75次SK714出土遺物	116	第230图 大友75次SD212出土遺物(6)	154
第192图 大友75次SK714	116	第231图 大友75次SD503	155
第193图 大友75次SK728	116	第232图 大友75次SD804	155
第194图 大友75次SK728出土遺物	116	第233图 大友75次SB628出土遺物	156
第195图 大友75次SK737	117		

挿 図 目 次

第234図 大友75次SB628	157	第258図 大友75次SK738、SP745、SP748、SP757、SP758、SK759、SK763、SK775出土遺物	197
第235図 大友75次SB825	158	第259図 大友75次SP785、SP792、SK803、SK811、SP813、SP814出土遺物	199
第236図 大友75次SB827	159	第260図 大友75次C61、D61、E61、E62出土遺物	201
第237図 大友75次SB827出土遺物	159	第261図 大友75次F61出土遺物	202
第238図 大友75次第Ⅰ面遺構配置図(2)	162	第262図 大友75次D62、E61、F61出土遺物	203
第239図 大友75次第Ⅱ面遺構配置図(2)	163	第263図 大友75次調査区区割図	205
第240図 大友75次第Ⅲ面遺構配置図(2)	164	第264図 大友75次Ⅰ区第Ⅰ面出土遺物(1)	206
第241図 大友75次SK001、SK002、SK005、SK007、SK010、SK021出土遺物	166	第265図 大友75次Ⅰ区第Ⅰ面出土遺物(2)	207
第242図 大友75次SK026、SP034、SK035、SK041、SK056出土遺物	168	第266図 大友75次Ⅰ区第Ⅱ面、Ⅰ区出土遺物	209
第243図 大友75次SP061、SP066、SK101、SD105、SP114、SP116出土遺物	170	第267図 大友75次Ⅱ区第Ⅰ面出土遺物(1)	211
第244図 大友75次SP118、SP121、SK125、SP126、SK130、SP134、SP137出土遺物	172	第268図 大友75次Ⅱ区第Ⅰ面出土遺物(2)	212
第245図 大友75次SK132出土遺物(1)	174	第269図 大友75次Ⅱ区第Ⅱ面出土遺物	213
第246図 大友75次SK132出土遺物(2)	175	第270図 大友75次Ⅱ区出土遺物(1)	215
第247図 大友75次SK132出土遺物(3)	176	第271図 大友75次Ⅱ区出土遺物(2)	216
第248図 大友75次SK144、SP161、P162、SP163、SP165、SP166、SK178、SK181出土遺物	177	第272図 大友75次Ⅲ区出土遺物(1)	219
第249図 大友75次SK184、SP193、SP195、SK203、SK210、SK219出土遺物	179	第273図 大友75次Ⅲ区出土遺物(2)	220
第250図 大友75次SK226、SP230、P231、SP232、SP246、SK253出土遺物	181	第274図 大友75次Ⅲ区出土遺物(3)	221
第251図 大友75次SK258、SP267、SK280、SK309、SK311、SP314、SK316、SK317、SP324出土遺物	183	第275図 大友75次Ⅲ区出土遺物(4)	222
第252図 大友75次SP326、SP327、SP344、SP363、SK364、SP374、SP382、SP384、SK386出土遺物	185	第276図 大友75次Ⅲ区出土遺物(5)	223
第253図 大友75次SK391、SP394、SK397、SP401、SK406、SK410、SK413、S415出土遺物	187	第277図 大友75次Ⅲ区道路上出土遺物	224
第254図 大友75次S417、SP431、SP443、SK447、SK456、SK463、SK464、SP466、SP484出土遺物	189	第278図 大友75次出土遺物(1)	226
第255図 大友75次SK485、SK487、SK490、SK494、SK526、SK531、SP543、SP546、SP549、SK565、SK569出土遺物	191	第279図 大友75次出土遺物(2)	227
第256図 大友75次SK588、SP589、SP590、SK604、SK615、SP657出土遺物	193	第280図 大友75次出土遺物(3)	228
第257図 大友75次SP664、SP671、SP678、SK681、SK686、SP688、SP689、SP692、SP706出土遺物	195	第281図 大友75次出土遺物(4)	229
		第282図 大友75次出土遺物(5)	231
		第283図 大友75次出土遺物(6)	232
		第284図 大友75次出土土製品	233
		第285図 大友75次出土土玉類	234
		第286図 大友75次出土金屬製品(1)	234
		第287図 大友75次出土金屬製品(2)	235
		第288図 大友75次出土錢貨(1)	238
		第289図 大友75次出土錢貨(2)	239
		第290図 大友75次出土錢貨(3)	240
		第291図 大友75次出土錢貨(4)	241
		第292図 大友75次出土錢貨(5)	242
		第293図 大友75次古代以前の土器	243
		第294図 大分県における壑穴建物一覽	245

挿 図 目 次

第295図 大分県下の整穴建物(1)	245	第298図 大分県下の整穴建物(4)	248
第296図 大分県下の整穴建物(2)	246	第299図 大分県下の整穴建物(5)	249
第297図 大分県下の整穴建物(3)	247		

表 目 次

第1表 大友75次遺構一覧表(1)	3	第5表 大友75次土製品観察表	284
第2表 大友75次遺構一覧表(2)	160	第6表 大友75次石製品観察表	285
第3表 大友75次出土銭貨一覧	236	第7表 大友75次玉類観察表	287
第4表 大友75次土器観察表	259	第8表 大友75次金属製品観察表	288

写真図版目次

巻頭1 調査区と大友中世府内町跡(南から)	写真図版32 SE149完掘状況、SE170土層	324
巻頭2 調査区と中世大友府内町跡(東から)	写真図版33 SE170井筒石組、SE170花卉状石組	325
巻頭3 大友中世府内町跡第69次・75次調査区	写真図版34 SE170完掘状況、SE170井筒完掘状況	326
巻頭4 SK052出土遺物	写真図版35 SE186井筒完掘状況、SE186遺物出土状況(1)	327
写真図版1 第I面遺構検出状況(西から)、第I面完掘状況(東から)	写真図版36 SE186遺物出土状況(2)、SE186完掘状況	328
写真図版2 第II面完掘状況(西から)、第II面完掘状況(北東から)	写真図版37 SE206土層、SE206井筒石組	329
写真図版3 第II面3区完掘状況(北から)、第III面完掘状況(西から)	写真図版38 SE206花卉状石組、SE216発掘状況	330
写真図版4 SK009検出状況、SK009遺物出土状況	写真図版39 SE216井筒検出状況、SE216完掘状況	331
写真図版5 SK009完掘状況・SK011	写真図版40 SE445、SD212検出状況	332
写真図版6 SK012、SK048	写真図版41 SD全景(北から)、SD212石組(1)	333
写真図版7 SK051、SK052検出状況、SK052掘削状況	写真図版42 SD212石組(2)、SD503土層	334
写真図版8 SK052完掘状況(北から)、SK052完掘状況(東から)	写真図版43 SD804完掘状況、SD804土層	335
写真図版9 SK052遺物出土状況、SK052完掘状況	写真図版44 SB628、SB628柱穴(1)	336
写真図版10 SK095、SK098	写真図版45 SB628柱穴(2)、SB825(西から)	337
写真図版11 SK130、SK130完掘状況(1)	写真図版46 SB627(西から)、1区北川土層	338
写真図版12 SK130完掘状況(2)、SK147	写真図版47 2区北側土層、3区東側土層	339
写真図版13 SK148、SK148土層	写真図版48 玉出土状況、金属製品出土状況	340
写真図版14 SK152、SK153	写真図版49 調査状況1、調査状況2	341
写真図版15 SK185上層集石、SK187	写真図版50 調査状況3、調査状況4	342
写真図版16 SK204、SK213	写真図版51 SX009、SK052出土遺物	343
写真図版17 SK220、SK283	写真図版52 SK052出土遺物	344
写真図版18 SK291礫出土状況、SK291完掘状況	写真図版53 SK052出土遺物	345
写真図版19 SK292礫出土状況、SK292完掘状況	写真図版54 SK052出土遺物	346
写真図版20 SK293、SK410遺物出土状況	写真図版55 SK052、SK095、SK098出土遺物	347
写真図版21 SK445(1)、SK445(2)	写真図版56 SK098、SK106、SK130出土遺物	348
写真図版22 SK461、SK530	写真図版57 SK130、SK153出土遺物	349
写真図版23 SK536発掘状況、SK536土層	写真図版58 SK153出土遺物	350
写真図版24 SK584、SK584	写真図版59 SK204出土遺物	351
写真図版25 SK601遺物出土状況(1)、(2)	写真図版60 SK204、SK213、SK266出土遺物	352
写真図版26 SK613、SK614	写真図版61 SK266、SK445出土遺物	353
写真図版27 SK640土層、SK640遺物出土状況	写真図版62 SK601出土遺物	354
写真図版28 SK676、SK691土層	写真図版63 SK601出土遺物	355
写真図版29 SK691完掘状況、SK737	写真図版64 SK601出土遺物	356
写真図版30 SK739、SE113	写真図版65 SK601出土遺物	357
写真図版31 SE149土層、SE149井筒	写真図版66 SK601出土遺物	358
	写真図版67 SK601出土遺物	359
	写真図版68 SK601出土遺物	360
	写真図版69 SK601出土遺物	361
	写真図版70 SK601出土遺物	362

写真図版目次

写真図版71	SK601出土遺物	363	写真図版81	SD105、SK132出土遺物	373
写真図版72	SK640出土遺物	364	写真図版82	SP162、SK226出土遺物	374
写真図版73	SK640、SK182、SE113出土遺物	365	写真図版83	SP314、SP324、SP327出土遺物	375
写真図版74	SE113、SE149出土遺物	366	写真図版84	SK406、S415、SK463出土遺物	376
写真図版75	SE149出土遺物	367	写真図版85	SP814出土遺物、中国産青花	377
写真図版76	SE149出土遺物	368	写真図版86	中国産青花	378
写真図版77	SE149、SE170出土遺物	369	写真図版87	中国産青花	379
写真図版78	SE186、SE445出土遺物	370	写真図版88	中国産青花、華南三彩	380
写真図版79	SE445出土遺物	371	写真図版89	金属製品ほか	381
写真図版80	SE445、SD105出土遺物	372			

第5章 中世大友府内町跡75次調査区

第1節 はじめに

1 調査の経過

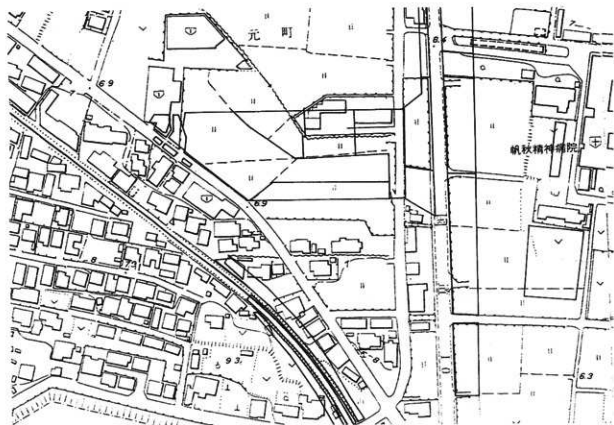
中世大友府内町跡は、大分川左岸の自然堤防上を中心に位置しており、現在の大分市錦町、元町、六坊北町にかけて展開する。

中世大友府内町跡の所在する上記地区を含めた市内中心部では、経済的再活性化と都市交通の円滑化を目指し、「大分駅周辺総合整備事業」が実施されている。この事業は「大分駅付近立体交差事業」、「大分駅南土地区画整理事業」、「庄の原佐野線等関連道路事業」の3事業を一体とする大規模公共事業であり平成8年度から実施されている。これらの事業に伴い、大分県教育委員会と大分市教育委員会は、相互に連携をとりながら開発事業者と協議を行いながら調査を実施している。

大分県教育委員会では、国土交通省実施の「国道10号古国府拡幅事業」、大分県土木建築部実施の「大分駅付近連続立体交差事業」、「庄の原佐野線道路改築事業」に伴う調査を平成11年度から行っている。また、大分市教育委員会は「大分駅南土地区画整理事業」や「市道改築事業」に伴う調査のほか、民間開発や個人住宅に伴う調査を実施している。加えて、国指定史跡大友氏遺跡（大友氏館跡・旧万寿寺地区）内の詳細確認調査も行っている。

中世大友府内町跡内における上記の調査は100箇所をこえ、遺跡に伴う詳細なデータが蓄積されつつある。

緊急地方道路整備事業庄の原佐野線改築工事に伴う中世大友府内町跡75次調査区の調査は平成18年11月20日～平成19年3月12日の間に実施した。



第1図 庄ノ原佐野線中世大友府内町跡75次調査区位置図

第2節 調査の概要

1 基本層序と調査区

75次調査区は69次調査区の東側に隣接して設けられたもので、東西に長い長方形を呈する。調査区内には東西方向にコンクリート製の水路が走っているため、一部については調査ができなかったが、調査面積は約870㎡を測る。

調査面積

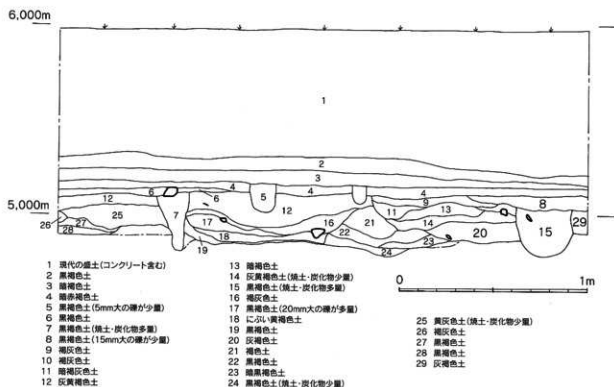
調査区の層序は、第2図に示すとおりである。バックフォアを使用し表土層等の掘削を行った後、手掘りによる掘り下げを行った。

基本層序

調査区内には厚い盛土の堆積がみられ、その層厚は1.2~1.4mを測る。盛土内にはコンクリート片などが含まれており、現代の盛土であることが分かる。盛土を除去すると、2層（黒褐色土）、3層（暗褐色土）が確認される。2層、3層とも層厚0.1~0.2mを測るが、一部で2層がみられない箇所もある。これらの層には、主として14~16世紀の遺物が包含されている。調査では、遺構が検出される可能性があるため、2層と3層を丁寧に掘り下げた。3層下には4層（暗赤褐色土）がみられる。層厚は0.1m程で、この層の上面において遺構を検出した。また、4層を掘り下げると、一部に6層（黒褐色土）をはさみ12層（灰黄褐色土）にたつする。この12層上面でも遺構を検出することができた。

遺構検出面

基本層序は先に述べたとおりであるが、広い調査区内において必ずしも一様でないため、上記の層位ごとに遺構を検出しているわけではない。調査では、上層から第I面、第II面、第III面の順で遺構を検出しているが、明確な層位に基づくものではない。そのため、検出遺構の時期は面ごとに明確に区別されるものではない。そのため、第II面、第III面の両方において14世紀代と16世紀代の遺構が確認されている。14世紀代の遺構についてみると、第II面では、東端に近い部分で、第III面では東半分程でみられる傾向が読みとれる。

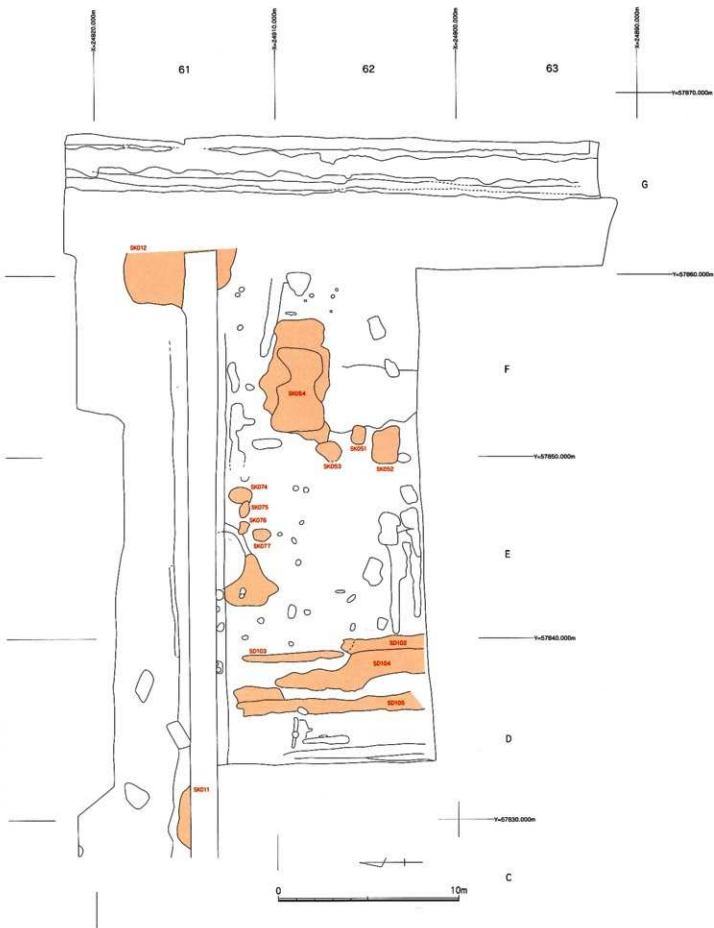


第2図 大友75次調査区土層図

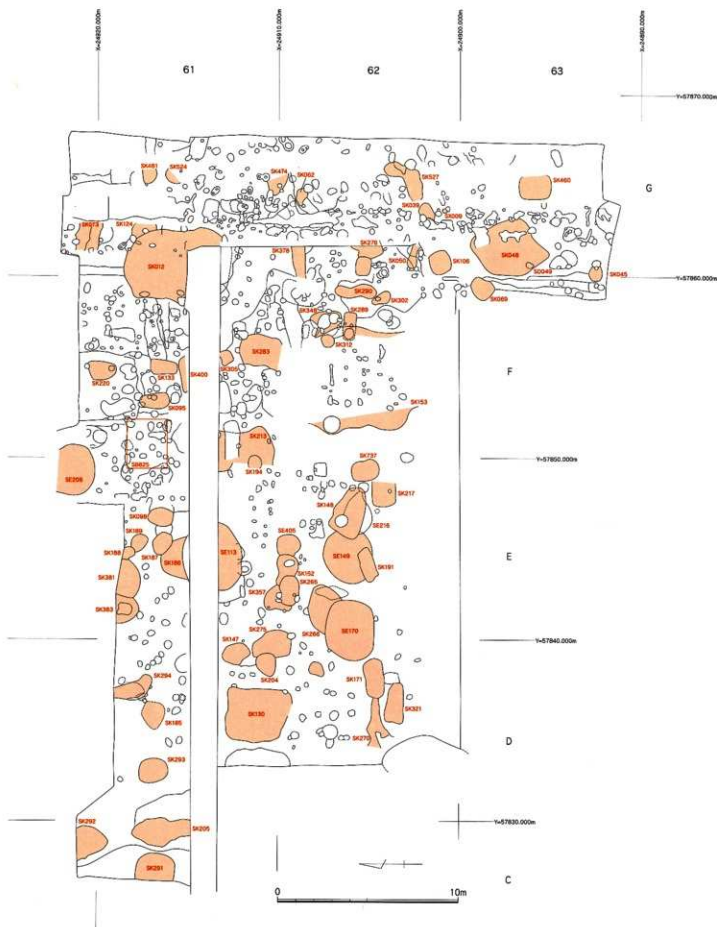
第1表 大友75次調査区遺構一覧表(1)

遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	全体図	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
SK009	S009	土器埋納土坑	第II面	G62	14世紀初	土師質土器小皿一括埋納	8
SK011	S011	不定形土坑	第I面	C61, D61	16世紀後～末	礎群検出	10
SK012	S012	不定形土坑	第I、II面	F61, G61	近世		11
SK039	S039	土坑	第II面	G62	14世紀初		20
SK045	S045	土坑	第II面	F63, G63	16世紀後		21
SK048	S048	不定形土坑	第II面	G63	14世紀前		21
SK050	S050	不定形土坑	第II面	G62	16世紀前		24
SK051	S051	土坑	第I面	F62	16世紀後～末		24
SK052	S052	不定形土坑	第I面	E62, F62	16世紀後～末	土器一括埋納あり	25
SK053	S053	不定形土坑	第I面	F62	16世紀後以降	上層に礫	29
SK054	S054	攪乱	第I面	F61, F62	近現代	重機のバケット痕あり	30
SK062	S062	不定形土坑	第II面	G62	14世紀		31
SK069	S069	不定形土坑	第II面	F63, G63	14世紀初		32
SK073	S073	土坑?	第II面	G60, G61	14世紀初～前		33
SK074	S074	土坑	第I面	E61	16世紀前	SK075に切られる	33
SK075	S075	土坑	第I面	E61	不明	SK074を切る	33
SK076	S076	土坑	第I面	E61	不明		33
SK077	S077	土坑	第I面	E61	16世紀後～末		33
SK083	S083	不定形土坑	第I面	E61	16世紀末以降		35
SK095	S095	土坑	第II面	F61	16世紀後～末		35
SK098	S098	土坑	第II面	E61	16世紀後～末		37
SK106	S106	土坑	第II面	G62	14世紀初～前		39
SK124	S124	土坑	第II面	G61	14世紀中		40
SK130	S130	大型土坑	第II面	D61, D62	16世紀後	方形に巡る石列あり	41
SK133	S133	土坑	第II面	F61	16世紀後		44
SK147	S147	不定形土坑	第II面	D61, E61	16世紀後		44
SK148	S148	不定形土坑	第II面	E62	16世紀後～末	SE149, SE216を切る	45
SK152	S152	土坑	第II面	E61, E62	16世紀後	SK265, SK405に切られる	46
SK153	S153	大型土坑?	第II面	F62	16世紀後～末	全形不明確	48
SK171	S171	土坑	第II面	D62	16世紀後～末	SK270を切る	50
SK178	S178	土坑	第II面	G62	16世紀		51
SK182	S182	井戸	第II面	D62	16世紀後～末	大友69次に続く	119
SK185	S185	土坑	第II面	D61	不明	墓石下に土坑	52
SK187	S187	土坑	第II面	E61	16世紀後	SE186を切る	52
SK188	S188	土坑	第II面	E61	16世紀後	調査区外に続く	53
SK189	S189	土坑	第II面	E61	16世紀	SK188に切られる	55
SK191	S191	土坑	第II面	E62	16世紀後～末	SE149を切る	55
SK194	S194	土坑	第II面	E61	16世紀後～末		55
SK204	S204	土坑	第II面	D61	16世紀後～末	SK275を切る	56
SK205	S205	不定形土坑	第II面	C61, D61	16世紀		57
SK213	S213	不定形土坑	第II面	E61, F61	16世紀後～末		58
SK217	S217	土坑	第II面	E62	16世紀後		59
SK220	S220	土坑	第II面	F60, F61	16世紀後		60
SK265	S265	土坑	第II面	E62	16世紀後	SK152, SK357を切る	46
SK266	S266	不定形土坑	第II面	E62	16世紀後	SE170に切られる	61
SK270	S270	不定形土坑	第II面	D62	16世紀後～末	SK171に切られる	62
SK275	S275	不定形土坑	第II面	D61, 62, E61, 62	16世紀後～末	SK204に切られる	62
SK276	S276	不定形土坑	第II面	G62	14世紀		63
SK283	S283	不定形土坑	第II面	F61, F62	14世紀前半代		64
SK289	S289	土坑	第II面	F62	14世紀前半代		65
SK290	S290	不定形土坑	第II面	F62	14世紀前半代		67
SK291	S291	土坑	第II面	C61	16世紀中～後	調査区外に続く	67
SK292	S292	不定形土坑	第II面	C60, C61	16世紀後～末	調査区外に続く	70
SK293	S293	土坑	第II面	D61	16世紀後		72
SK294	S294	不定形土坑	第II面	D61	16世紀後	調査区外に続く	73
SK302	S302	不定形土坑	第II面	F62	14世紀中		74
SK305	S305	土坑	第II面	F61	14世紀前		74
SK312	S312	土坑	第II面	F62	14世紀前半代		65
SK321	S321	土坑	第II面	D62	不明		75
SK323	S323	土坑	第II面	D62	16世紀前		76
SK348	S348	土坑	第II面	F62	14世紀前半代		65
SK357	S357	不定形土坑	第II面	E61, E62	16世紀後	SK152, SK265に切られる	46

遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	全体図	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
SK381	S381	土坑	第Ⅱ面	E61	16世紀?	SK383を切り、SK188に切られる	53
SK383	S383	土坑	第Ⅱ面	E61	16世紀?	SK381に切られる	53
SK400	S400	土坑	第Ⅱ面	F61	不明		76
SK405	S405	土坑	第Ⅱ面	E61, E62	16世紀後	SK152に切られる	46
SK414	S414	土坑	第Ⅲ面	F61, G61	14世紀前半代		76
SK423	S423	不定形土坑	第Ⅲ面	F61, F62	14世紀前半代		78
SK436	S436	土坑	第Ⅲ面	F62	不明		78
SK445	S445b	不定形土坑	第Ⅲ面	D61, 62, E61, 62	16世紀中		78
SK460	S460	土坑	第Ⅱ面	G63	16世紀後		82
SK461	S461	土坑	第Ⅱ面	G61	14世紀中		83
SK474	S474	土坑	第Ⅱ面	G61・G62	14世紀		85
SK524	S524	土坑	第Ⅱ面	G61	14世紀中		85
SK527	S527	不定形土坑	第Ⅱ面	G62	14世紀前半代		86
SK530	S530	不定形土坑	第Ⅲ面	D61	16世紀初～前		87
SK536	S536	不定形土坑	第Ⅲ面	E61	不明	SE113に切られる	88
SK537	S537	不定形土坑	第Ⅲ面	F62, G62	不明	SK596を切る	89
SK570	S570	不定形土坑	第Ⅲ面	D61, E61			113
SK574	S574	不定形土坑	第Ⅲ面	F60	不明	SD503を切る	90
SK583	S583	土坑	第Ⅲ面	D61, E61	14世紀前半代		90
SK584	S584	土坑	第Ⅲ面	C61	16世紀後～末		90
SK592	S592	不定形土坑	第Ⅲ面	F62	16世紀		92
SK596	S596	土坑	第Ⅲ面	F62	不明	SK537に切られる	89
SK601	S601	不定形土坑	第Ⅲ面	D61	16世紀前	調査区外に続く	92
SK602	S602	不定形土坑	第Ⅲ面	E62	16世紀中以前		101
SK613	S613	不定形土坑	第Ⅲ面	D61, E61	14世紀中		102
SK614	S614	土坑	第Ⅲ面	D62	16世紀後		104
SK627	S627	土坑	第Ⅲ面	E62	14世紀以降		106
SK631	S631	土坑	第Ⅲ面	F62	14世紀?		105
SK640	S640	土坑	第Ⅲ面	D62	14世紀中～後	SK588に切られる	107
SK652	S652	土坑	第Ⅲ面	E61, E61	不明		113
SK660	S660	不定形土坑	第Ⅲ面	E61, E62	14世紀中		111
SK662	S662	不定形土坑	第Ⅲ面	D62	不明		114
SK676	S676	土坑	第Ⅲ面	E61, F61	16世紀後		111
SK691	S691	土坑	第Ⅲ面	D62	14世紀前半代	SK744を切る	112
SK694	S694	土坑	第Ⅲ面	E61	14世紀		114
SK700	S700	不定形土坑	第Ⅲ面	D61	14世紀	SK530に切られる	115
SK701	S701	不定形土坑	第Ⅲ面	D61	14世紀	SK700などに切られる	115
SK714	S714	不定形土坑	第Ⅲ面	E61	不明		116
SK728	S728	土坑	第Ⅲ面	C61	14世紀代		116
SK737	S737	土坑	第Ⅱ面	E62, F62	不明		117
SK739	S739	土坑	第Ⅲ面	E61, E62	14世紀前	SK764に切られる	117
SK744	S744	不定形土坑	第Ⅲ面	D62	14世紀前以降	SK691にきられる	112
SK764	S764	土坑	第Ⅲ面	E61	14世紀前以降	SK739を切る	117
SP771	S771	土坑	第Ⅲ面	E62	不明		106
SE113	S113	井戸	第Ⅱ面	E61	16世紀後	SE186を切る	122
SE149	S149	井戸	第Ⅱ面	E62	16世紀後	SK148, SK191に切られる	123
SE170	S170	井戸	第Ⅱ面	D62, E62	16世紀後～末	SK266を切る	126
SE186	S186	井戸	第Ⅱ面	E61	16世紀前	SE113, SK187に切られる	129
SE206	S206	井戸	第Ⅱ面	E60, F60	16世紀後～末	調査区外に続く	132
SE216	S216	井戸	第Ⅱ面	E62	16世紀前	SK148に切られる	136
SE445	S445a	井戸	第Ⅲ面	D61, D62	16世紀中	大友69次に続く	138
SD049	S049	溝状遺構	第Ⅱ面	F63, G63	14世紀中～後		143
SD102	S102	溝状遺構	第Ⅰ面	D62, E62	16世紀	SK045に切られる	143
SD103	S103	溝状遺構	第Ⅰ面	D61, D62	16世紀		145
SD104	S104	溝状遺構	第Ⅰ面	D61, D62	16世紀		145
SD105	S105	溝状遺構	第Ⅰ面	D61, D62	16世紀		145
SD107	S107	溝状遺構	第Ⅰ面	D61, D62	16世紀		145
SD212	S212	溝	第Ⅰ面	G60～G63	16世紀後～末	SD320, SD446と同じ遺構	147
SD503	S503	溝	第Ⅲ面	F60, 61, G60, 61	不明	SK574に切られる	155
SD804	S804	溝	第Ⅲ面	E61, E62	16世紀前半以降		155
SB628	S628	竪穴建物跡	第Ⅲ面	F62, F62	16世紀		156
SB825	S825	竪穴建物跡?	第Ⅱ面	E61, F61	16世紀前?		158
SB827	S827	掘立柱建物跡?	第Ⅲ面	F62	不明		158



第3図 大友75次第I面遺構配置図(1)



第4図 大友75次第Ⅱ面遺構配置図(1)

2 土器一括埋納

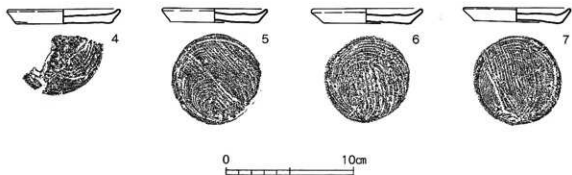
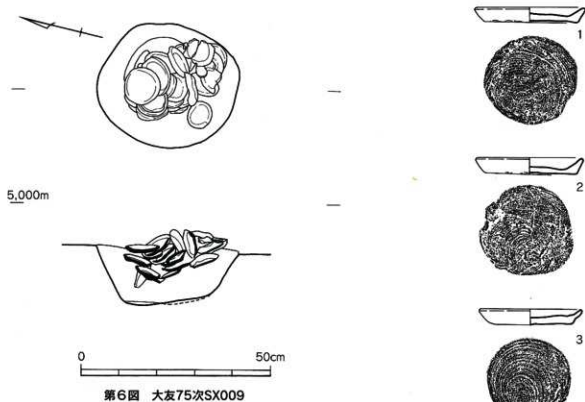
(1) SX009

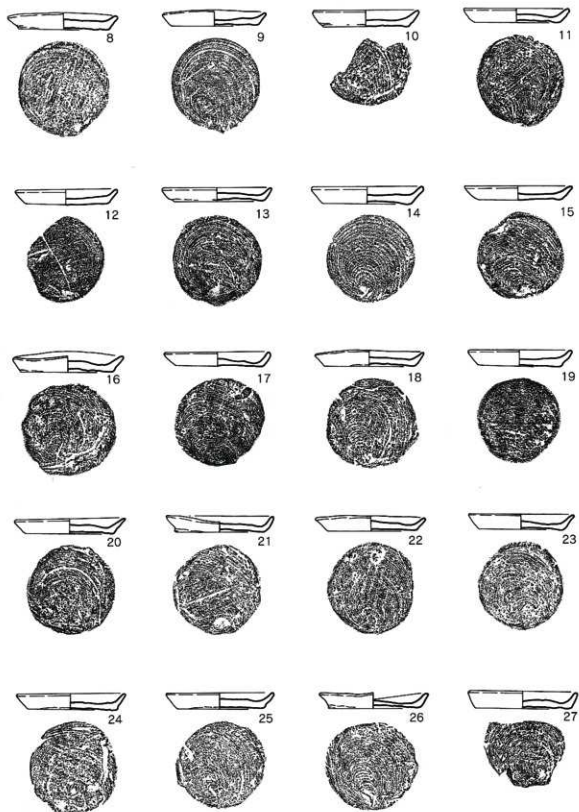
位置と検出面 SX009 (第6図) は第11面で検出された。位置は調査区の東南部にあたり、第1面で検出された第2南北大路の西側側溝の西側に隣接する。

遺構の規模 埋納遺構は径0.25~0.3mの円形を呈するもので、検出面から底面までの深さは0.1~0.15mを測る。

出土状況 埋納された土器はすべて土師質土器小皿で、27枚を数える。小皿は数枚を除いて全て完形で、本来は全てが完形であったものと思われる。出土状況を見ると、東南側から中央付近にかけ折り重なるように出土しているのが分かる。その多くが口縁部を上にしてのり、規則的に整然と積まれたような状況は読みとれない。また、土器は底面から0.05m程浮いており、緩やかに埋まった状態の遺構に、口縁部を上にして重ねた土器を、東南側から中央に向けまとめて置くような感じで埋納したものと想定される。

出土遺物 出土遺物 (第7、8図) は土師質土器小皿である。口径はいずれも8.5cm前後で、同様な器形を





第8圖 大友75次SX009出土遺物(2)

呈するが、細かくみると、体部断面三角形で立ち上がり部が底部よりも厚いもの（1、2）、体部が底部から細く三角形に立ち上げられるもの（3～9）、体部が底部と同じ厚みで短く斜方向に立ち上がるもの（9～27）などがみられる。時期は14世紀初めに比定される。

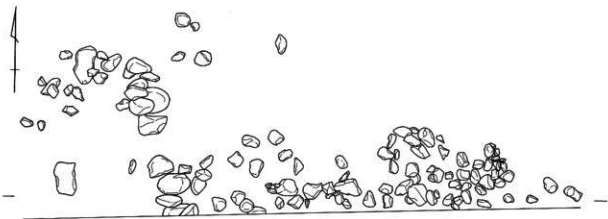
3 土 坑

(1) SK011

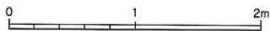
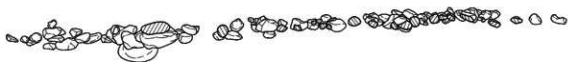
検出面と位置 SK011（第9図）は、第1面の北西部で検出された。

集石 集石状の遺構で、東西2mにわたり確認できる。南側は水路によって破壊されており、全体の規模は不明である。石は0.1～0.3mのものがみられ、0.1m程のものが多数を占める。石は上下に重なることなく、レベル的には東から西に向かい傾斜している。集石に伴う土坑は確認されてない。

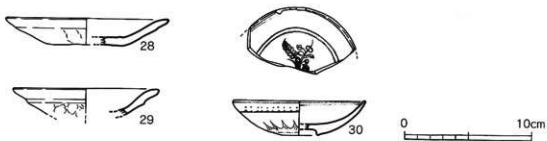
京都系土師器 出土遺物（第10図）は京都系土師器、青花がある。京都系土師器（28、29）のうち28はやや厚めのもので、復元口径13.0cmを測る。29も厚手で、外面口縁下に強いナデによる段がみられる。30は基筒底を呈する中国産青花皿である。時期は16世後葉～末に比定される。



5,500m



第9図 大友75次SK011

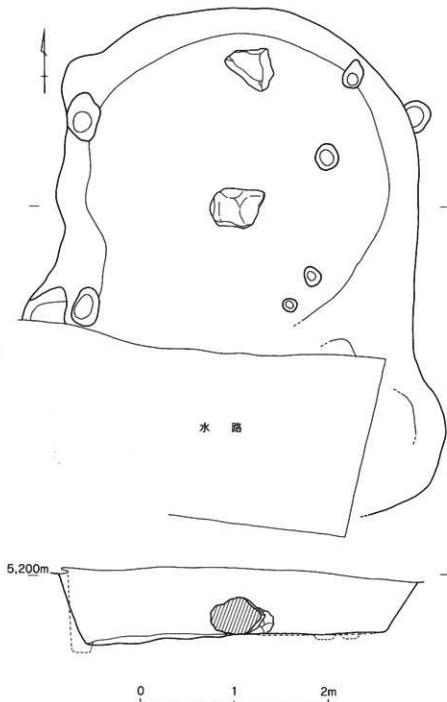


第10図 大友75次SK011出土遺物

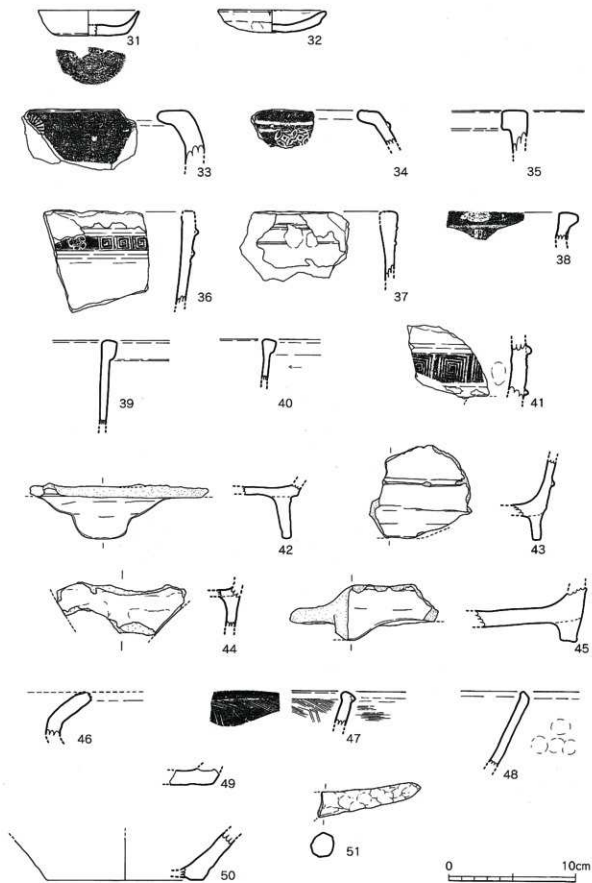
(2) SK012

位置と検出面	SK012(第111図)は第1面で確認された。調査区の東北部に位置するが、土坑の中央に水路が走っているため大きく破壊されている。
土坑の規模	土坑は大型のもので、南北に長い不定形土坑を呈する。その規模は、長さが推定で約5.5m、幅が3.8~4.2mである。深さは0.5~0.8mを測り、床面は比較的平坦である。土坑内からは長さ0.5mに達する大型のものも含めて礫が多数検出されており、不定形を呈する土坑の形状と併せ、本土坑が廃棄物処理のための性格を有していたことが想定される。
土坑の性格	土坑内からは中世に位置づけられる遺物も多数出土した。しかし、それらは破片資料で、土坑掘削に伴い流れ込んだものと考えられる。
遺物出土状況	出土遺物(第12~19図)は時期や器種が多岐にわたるものが出土している。
土師質土器	土師質土器(31、32)は、31が14世紀後葉の底部糸切り小皿、32が16世紀後葉~末の京都系土師器である。
瓦質土器	35~51は瓦質土器である。このうち33~45は火鉢である。33、34は浅い器形で内湾する体部から口縁部が内側に引き出されるもので、15世紀代のものである。35は厚手大型のもので16世紀代に比定される。36~40は深い器形を呈するものである。36、37は口縁部外面が肥厚しないもので16世紀中葉以前に、また38~40は口縁部外面が肥厚しており16世紀後葉~末に各々比定される。41は器形不明であるが16世紀代のものである。42~45は底部で、いずれも板状の脚が貼り付けられている。16世紀中葉以前のものである。
火鉢	
甕、鉢	46は甕の口縁部である。47、480は鉢である。47は内面に摺目がみられる。49、50は甕または鉢の底部、51は棒状の把手である。
備前焼 壺	52~79は焼締陶器の備前焼である。このうち52~54は口縁部が頸部から短くくの字状に折れる短頸壺である。52は体部にクロコ痕が残るもので、肩部にヘラ記号がみられる。以上は16世紀代に比定される。55は肩部の資料で、貼り付けの痕跡が残る。
壺	56~59は甕である。56~58は口縁部を玉縁上に仕上げる。59は玉縁の外面にクロコ痕がみられる。
播鉢	60~75は播鉢である。60~62は口縁部が上方に拡張しないもので、14世紀代に比定される。63~67は口縁部上方への拡張がみられるもので15世紀代のものである。68~73は口縁部に面を有するもので、16世紀代の所産である。78は口縁部を欠く資料であるが、近世に入る可能性がある。
甕、瓶	76は鉢である。体部は内湾し、口縁部が内側に伸びる。77は壺、78、79は瓶の頸部である。
青磁	80~112は陶磁器である。80、81は鎗蓮弁文を有する青磁碗で、13世紀の所産である。82も青磁碗で、外面に雷門の退化した文様がみられる。15世紀後半から16世紀のものであろう。83、84は退化した剣先蓮弁文をもつ青磁碗で、16世紀代のものであろう。85は口縁部端反りの青磁碗で、15、16世紀代に比定される。
白磁	86~90は白磁である。86は口禿げで、13~14世紀の所産である。87、88は口縁部端反りの皿で、15世紀後半~16世紀に比定される。89、90は碗である。
天目碗	92、94は瀬戸美濃系天目茶碗の口縁部である。このうち、94は増埴に転用されている。
青花	91、102~112は青花である。91、102~108、111は碗である。106は蓮子碗、103は口縁部端反りで内面に四方壽文が、102、107、108は饅頭心タイプのものである。いずれも中国景德鎮窯系青花で、これに対し91、104、105、111は中国漳州窯系青花である。109、110はともに中国景德鎮窯系青花皿で、109は鈿皿である。112は日本製の可能性をもつ。96~100は中国産青磁、白磁の底部である。96、97は青磁碗、99は白磁碗、98は16世紀代の皿、100は口禿げ皿である。また、93、95、101は陶製である。93は播鉢、101は碗である。
その他	
軒丸瓦	113~122は瓦類である。このうち113、114は軒丸瓦である。113が中央の巴文の周囲に圈線+珠

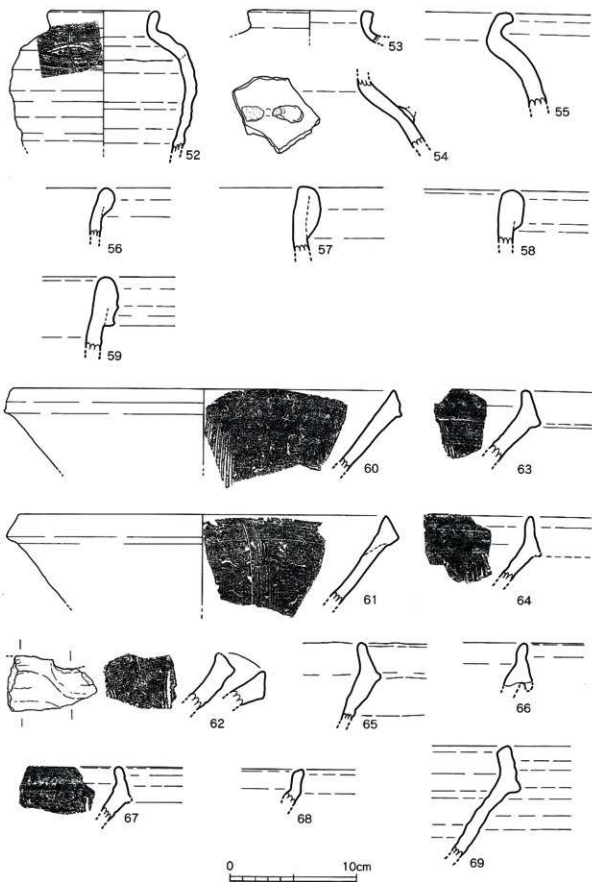
- 軒平瓦 文+圏線を配する。114は大部分を欠失するが、珠文と圏線がみられる。115は軒平瓦である。瓦当面の上下幅はあまりなく、圏線と唐草文がみられる。116~118は丸瓦である。いずれも外面にタタキ痕が残り、116と117は内面に布目度が見られる。
- 鬼瓦 119は鬼瓦等の一部と推定される。
- 平瓦 120は平瓦である。凹面には粘土塊から切り離した際の痕跡が残る。
- 塼 121、122は塼である。両者とも上面はナデにより丁寧に仕上げられている。



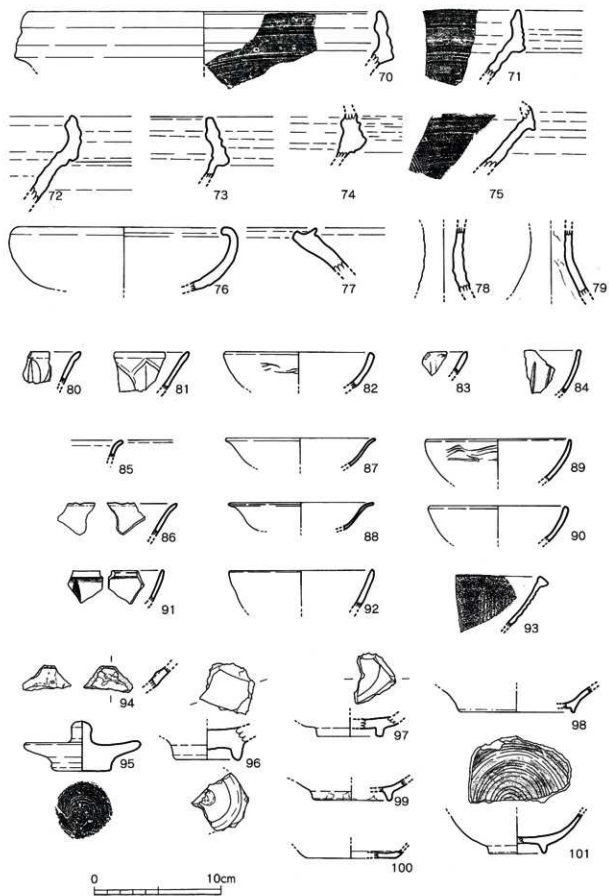
第11図 庄ノ原佐野線調査区位置図大友75次SK012



第12图 大友75次SK012出土遺物(1)

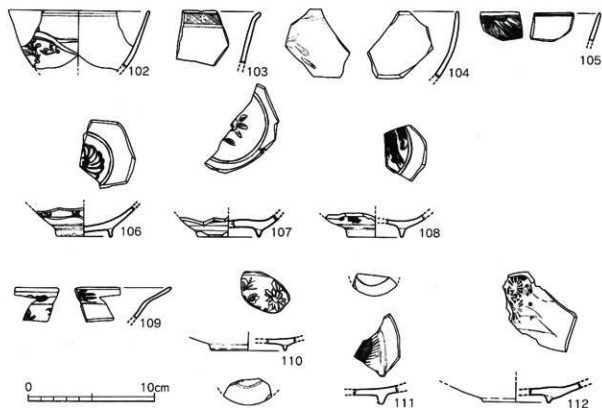


第13图 大友75次SK012出土遺物(2)

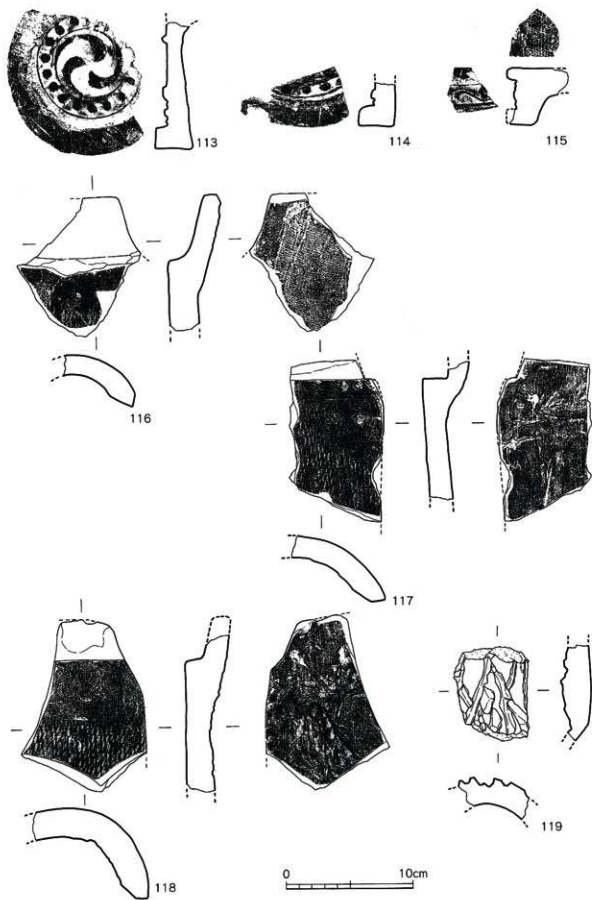


第14圖 大友75次SK012出土遺物(3)

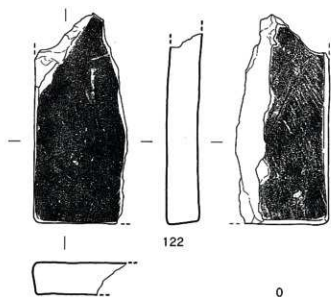
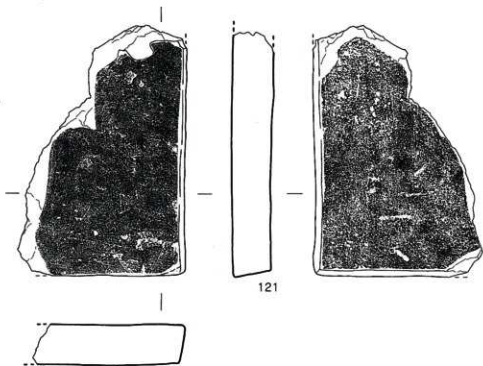
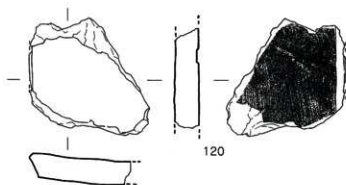
- 円盤状土製品 123は円盤状土製品である。瓦質土器片を円形に打ち欠き整えたものである。
- 土鍾 124～127は土鍾である。このうち127は幅広の太いもので、重量も25.8gを測る。他の重量がいずれも10g以下であることと比べれば、格段に重いことが分かる。
- 土鈴 124は土鈴である。破片資料であるが、復元径は3cmを測る。基部には紐通し用の孔が穿たれる。
- 砥石 129、130は砥石である。129は幅4.2cm、厚さ3.3cmを測るもので一部を欠く。緻密な石材を用いており、上面と下面及び端面を磨面として使用している。130も欠損品であるが、13cmを超えるものである。本来の面が2面残存しているが、両面とも磨面として使用されている。
- 鉄製釘 131～140は金属製品である。このうち131～134は鉄製釘である。131、132はいずれも頭を折り曲げた、断面方形を呈するものである。132は先端部を欠損するが、両者とも二寸釘に相当するものである。133、134は頭部を欠くが、断面は方形をなす。136は鉄製刀子の可能性をもつが、詳細は不明である。
- 銅製釘 135、137～140は銅製品である。135は不明銅製品である。137、138銅製釘と思われる。頭部を欠くが、鉄製とは異なり断面が円形を呈する。139、140は煙管である。同一固体と思われ、雁首と吸口を繋ぐ竹が残存している。139の雁首については、火皿がやや浅めで、脂返しの湾曲が直線的になっている。煙管については近世の所産であろう。
- 玉類 141～143は玉類である。141は石製で、径1.2～1.3cm、高さ0.9cmを測る比較的大型のものである。穿孔された孔は上下で径が大きく異なる。142はガラス製である。深緑色を呈するもので、径0.4cm、高さ0.2cmを測る小型品である。143は金属製と思われるもので、穿孔は認められない。表面が緑青色を呈する。重量は0.2gである。
- 遺構の時期 以上のように、SK012出土遺物については、13世紀から近世にかけてのものが見られる。よって、本遺構は近世における廃棄物処理土坑であると考えられる。



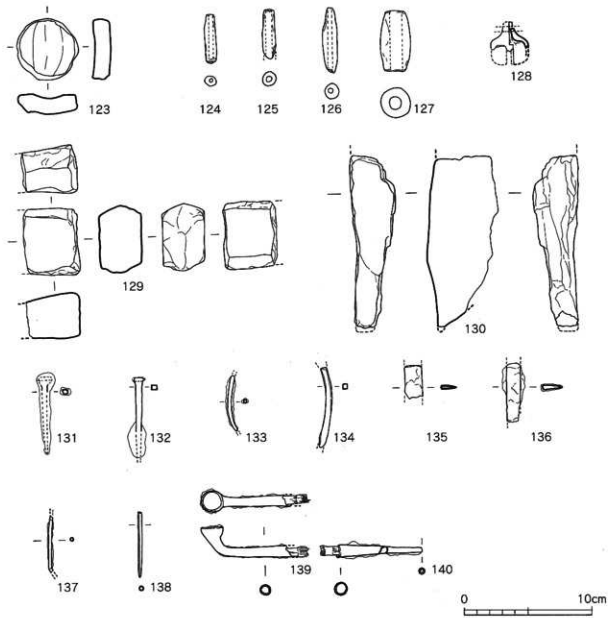
第15図 大友75次SK012出土遺物(4)



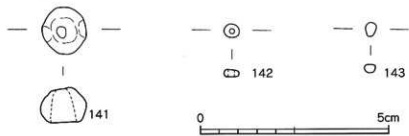
第16图 大友75次SK012出土遺物(5)



第17图 大友75次SK012出土遺物⑥



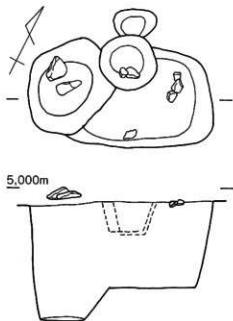
第18回 大友75次SK012出土遺物(7)



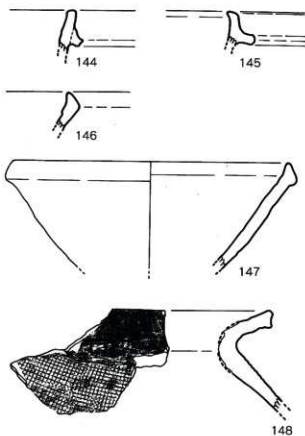
第19回 大友75次SK012出土遺物(8)

(3) SK039

- 位置と検出面 SK039 (第20図) は、第II面で検出した。調査区の東南部に位置し、SX009のすぐ北側にあたる。土坑は柱穴や擾乱土坑などと重複している。
- 土坑の規模 土坑は、東西方向に長軸を有する長方形基調を呈しており、平面観は定型化した感じを受ける。柱穴などに切られているが、その規模は、長さは復元で1.2m、幅0.8mである。床面までの深さは約0.7mを測り、床面は平坦である。また、床面にいたる壁も垂直気味に掘り込まれている。遺物の出土は散発的で、流れ込みの状態で破片資料が出土したのみである。
- 土坑の性格 遺構の形状からみて、本遺構は墓の可能性も考えられよう。
- 出土遺物 出土遺物 (第21図) には土鍋、鉢、甕、砥石などがある。
- 土鍋 144、145は土鍋である。いずれも外面口縁下に鈎が付されるものである。144は直立する口縁をもち、口縁下にやや低い鈎を付す。一方145はやや内湾気味に口縁部にいたり、口縁下には144に比べ高めめの鈎が付けられる。これらは、本来的には13世紀後半に比定されるものであろう。
- こね鉢 146、147は東播系のこね鉢である。両者とも口縁端部を上方にやや痛み上げ気味である。147の復元口径は22.8cmを測る。
- 須恵質甕 148は須恵質の甕である。外面には格子目タタキが施され、内面により平滑にされている。
- 砥石 149は砥石である。厚さ0.7cmと薄く、上面のみ磨面として利用している。
- 遺構の時期 本遺構の時期は、14世紀初めに位置づけられる。



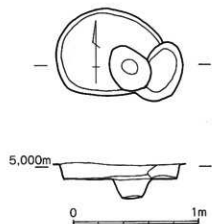
第20図 大友75次SK039



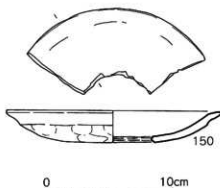
第21図 大友75次SK039出土遺物

(4) SK045

- 位置と検出面 SK045 (第22図) は調査区の東南隅に位置するもので、第Ⅱ面で検出された。
- 規模 土坑は東西に長軸をもつ楕円形で、複数の柱穴により切られている。規模は復元長0.9m、幅0.7m、深さ0.1mである。土坑の上面には0.2~0.3mの礫がみられる。遺物の出土は少量で、流れ込みの状態です出土したのみである。
- 出土遺物 出土遺物 (第23図) として京都系土師器がある。150は京都系土師器で復元口径17.0cmを測る大型のものである。比較的厚手で、外面口縁下には強いナデによる段がみられる。また、底部は径約6cmの円形に打ち欠かれている。16世紀後葉に比定される。
- 土坑の時期



第22図 大友75次SK045



第23図 大友75次SK045出土遺物

(5) SK048

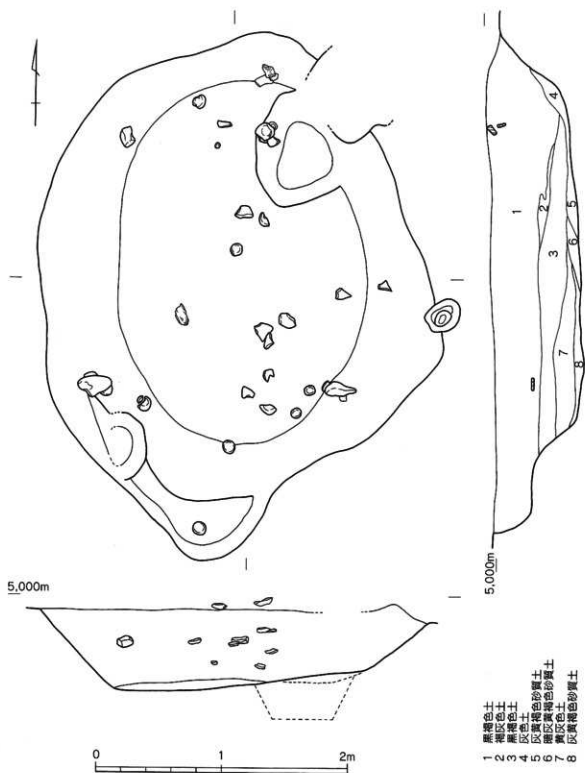
- 検出面と位置 SK048 (第24図) は第Ⅱ面で検出された。調査区の東南隅に位置しており、攪乱土坑により一部が切られている。
- 規模 遺構は不定形を呈しており、南北に長軸をもつ。規模は長さ4.2m、幅3.2m、深さ0.25~0.33mを測る。床面は比較的平坦であるが、東から西に向け傾斜している。壁は床面から斜方向に立ち上がっており、部分的に二段掘り状を呈する。遺構の上部には攪乱土坑がいくつかみられたが、攪乱土坑以外では、土坑の北東部に径1.0m程の円形基調の土坑が掘り込まれる。
- 遺構の重複
- 遺構の性格 土坑内からは完形の土師質土器などが出土したが、いずれも床面から浮いた状態であった。本土坑は廃棄物処理土坑と思われ、時期的には14世紀前葉に比定される。また、土坑の北東部に切り込んだ円形土坑は、出土遺物から16世紀前葉に位置づけられる。
- 遺構の時期
- 土師質土器 出土遺物 (第25図) には、土師質土器、吉備系土師器、常滑焼、瓦、金属器等が出土した。
- 土師質土器 151~166は土師質土器である。151~153は坏で、後述するロクロ痕を残すものより古相に位置づけられる。151、152が体部を内湾気味に立ち上げるのに対し、153は直立気味である。154、155は底径と口径の差が大きい。内面にロクロ痕を残すが、口縁部ちかくは強いナデが施されるためロクロ痕はみられない。157~166は小皿である。その多くは完形で、口径は7.7~8.9cmのものがみられるが、8cm代前半のものが多い。以上のうち、154、155は16世紀前葉に比定されるが、他は14世紀前葉に位置づけられる。
- 吉備系土師器 167、168は吉備系土師器椀の底部である。底径約4cmで、退化した高台が付される。14世紀初~前葉の所産である。
- 常滑焼 169は常滑焼の甕口縁部である。口縁部縁帯の拡張はそれほど著しくない。14世紀前半である。
- 瓦質土器 170は瓦質土器鉢である。内面に細かなハケ目が施される。13、14世紀に見られるものである。

171は甕の口縁部である。

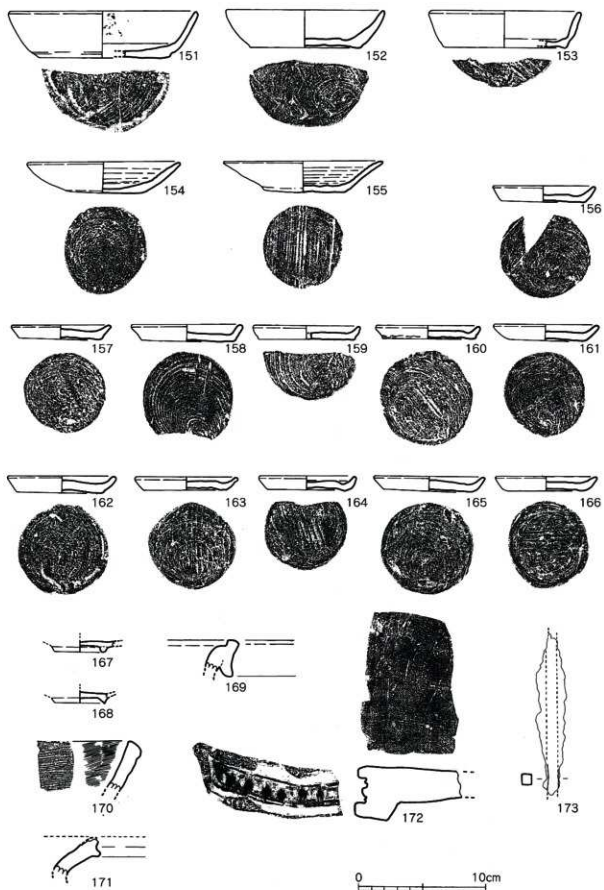
軒平瓦

172は軒平瓦である。瓦当面は狭く、圏線の内部に珠文が配される。

173は鉄製品である。欠損品であるが、現存長約13cmを測る。断面は方形で、一辺約1cmを測る。大型の釘か。



第24図 大友75次SK048



第25図 大友75次SK048出土遺物

(6) SK050

検出面と位置

SK050 (第26図)は調査区の東寄りの位置で、他遺構と複雑に重複しながら第Ⅱ面で検出された。

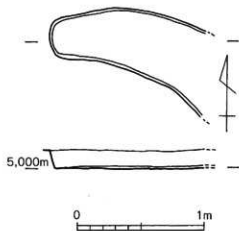
規模

遺構は東西方向に細長くのびる土坑であるが、東側は削平のため確認できなかった。規模は幅0.3～0.5m、現存長1.2m、深さ0.15mを測る。本土坑の周囲には土坑や柱穴などがみられるが、SK050はこれらを切る。

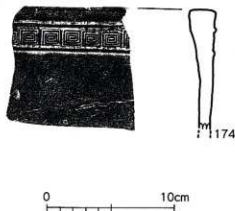
土坑内からは、小破片ながらも多数の遺物が出土した。しかし、大部分が器形の復元にいたるものではなかった。

出土遺物

出土遺物のうち、174は瓦質土器火鉢である。円筒形の器形を呈するもので、口縁にむかい直立する。口縁外面下に低い突帯を配し、その間に雷門のスタンプ文が連続して付されている。時期的には16世紀前葉に位置づけられる。



第26図 大友75次SK050



第27図 大友75次SK048出土遺物

(7) SK051

SK051 (第28図)は、調査区中央付近の第Ⅰ面において検出された。SK153と重複しているが、これを切る。

検出面と位置

土坑は方形基調を呈するもので、短辺0.7m、長辺0.9～0.95mの規模

規模

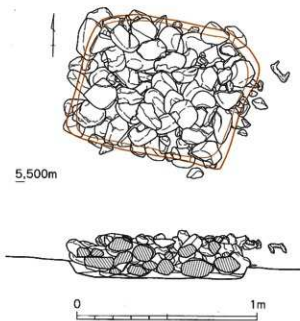
を有する。深さは現状で0.07mを測るが、後述する礫の堆積状況から0.25m以上はあったものと推測される。

礫出土状況

土坑内は、礫がほぼ充填された状態である。礫は0.05～0.2mのものが多く、0.2mの大きめの礫が多い。礫は三重に充填されており、土坑内はほぼ礫のみでみだされている。

土坑の時期

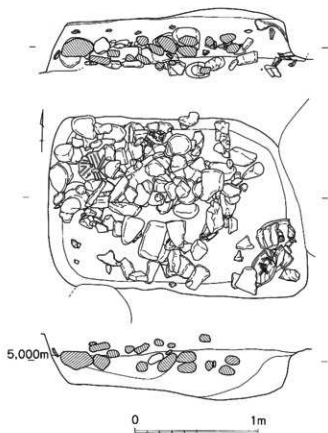
土坑内からは、土器等の遺物は全く出土しなかった。そのため、土坑の時期を確定することができないが、他遺構との切り合い関係などから16世紀後葉～末に比定される。



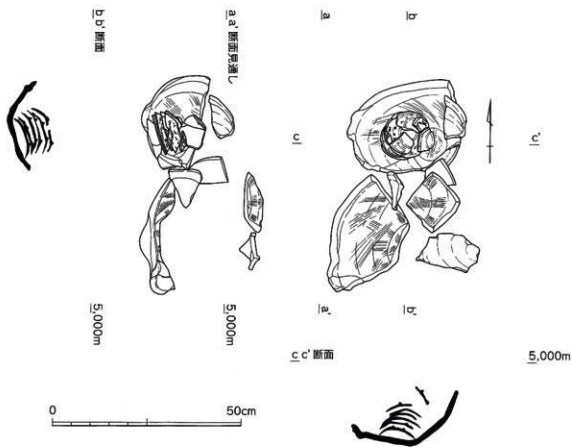
第28図 大友75次SK051

(8) SK052

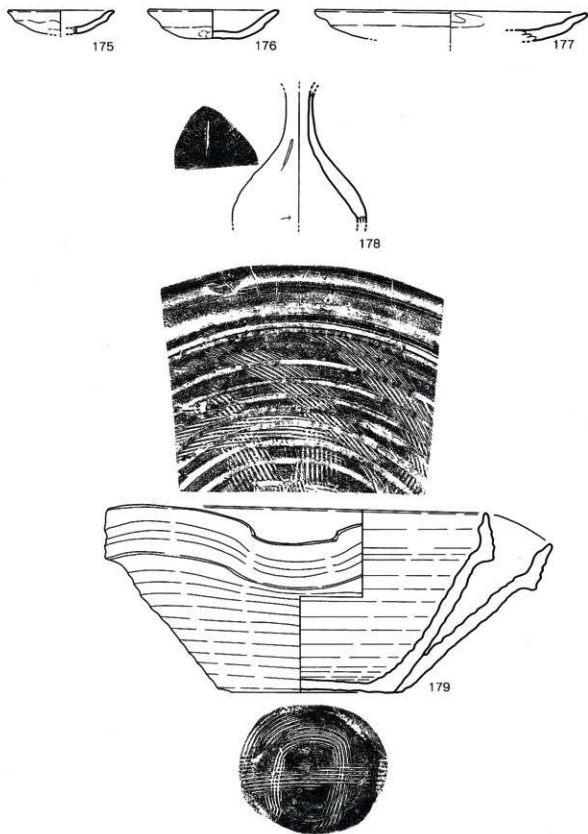
- 検出面と位置 SK052(第29図)は第1面で検出された。土坑は調査区の中央付近に位置し、本土坑の北側にはSK051、SK053がみられる。
- 規模 土坑は長方形基調を呈し、東西方向に長軸をもつ。規模は長辺1.8~2.0m、短辺1.35~1.45mである。深さは0.25~0.4mで、床面は平坦でなく緩やかに波うつ状況である。土坑内には0.1~0.3mの礫などが多数みられた。これらは床面にはみられず、上層において検出された。土坑が一定程度埋没した後に、一括破棄されたものと思われる。
- 遺物出土状況 遺物は礫に混じり出土したが、注目されるのは、土坑の東南隅で重なった状態で確認された備前焼播鉢と中国産青花皿(第30図)である。備前焼播鉢2個体がやや傾きながら正位置に置かれ、そのうち一つの播鉢の中に青花皿が7枚重なったまま伏せた状態で出土した。備前焼については、割れて出土したが、隣接する破片を接合することにより、ほぼ完形ちかくまで復元された。これらはいずれも二次焼成を受けており、火災にあった後に一括廃棄されたものと思われる。
- 時期的には16世紀後葉~末に位置づけられる。
- 出土遺物 出土遺物(第31~33図)のうち、備前焼播鉢(179、180)と中国産青花皿(186~192)の一括品から紹介する。備前焼播鉢は両者とも口縁端面が内側に斜めに傾斜し、斜行摺目と内底面の摺目がみられる16世紀の後葉~末に位置づけられる。
- 中国産青花 中国産青花皿のうち、186は漳州窯系のもので、口縁部がわずかに端反り気味で、見込み部のみならず文様を描く。187~190は景德鎮窯系で、小野正敏分類の皿B1群にあたる。口縁部端反りで、体部外面に牡丹唐草文を、見込み部に玉取り獅子文を描く。191は景德鎮窯系で、小野正敏分類の皿E群にあたる。体部外面に唐草文、見込み部に花樹文が描かれる。192は漳州窯系で、器形的には小野正敏分類の皿E群にあたる。体部外面に唐草文、見込み部に花文を描く。また、外面高台内の中央には、朱書きによる「上」の字がみられる。以上はいずれも二次焼成が認められる。時期的には、古相のものも含むが、漳州窯系のもが含まれることから青花皿全体としては16世紀後葉~末に位置づけられる。
- 京都系土師器 土坑内出土のその他の遺物を紹介する。175~177は京都系土師器である。いずれも厚手で、外面口縁下に、強いナデに伴う段がみられる。16世紀後葉~末に比定される。
- 178は備前焼瓶である。体部から頸部にかけての資料で、肩部にヘラ描きがみられる。
- 中国産青磁 181、182は中国産青磁碗である。181は体部外面に剣先連弁文の退化したものが施される。16世紀代のものである。182は直口口縁を呈し、厚い底部をもつ。内外面とも文様はみられない。15、16世紀に位置づけられる。
- 中国産青花 183~185は青花碗である。183は景德鎮窯系で、口径10.4cmの小型品である。底部は饅頭心タイプで、口縁部がやや端反り気味である。体部外面には線彫りによる暗文がみられる。見込み部と体部内面には花文が記される。また、外面高台内には「長命富貴」の吉祥文字がみられる。184は景德鎮窯系で、小野正敏分類の碗E群に相当する。185は景德鎮窯系で、小野正敏分類の碗C群に相当する。
- 硯 193は硯である。石材は赤褐色を呈しており、赤間石と思われる。厚さ0.6cmと全体に薄手の作りである。裏面にも、長側面に沿い幅約1cmの一段高い部分が作り出されている。未製品の可能性が高い。
- 鉄製釘 194~198は鉄製釘である。194は頭部と先端を欠くものである。断面は方形を呈する。195は頭部を折り曲げたものであるが、先端部を欠く。196は完形品であるが、L字状に曲がる。一寸釘に相当するものか。187、198はほぼ完形品にちかいもので、頭部は折り曲げられ、断面は方形を呈する。サイズのには一寸半に相当する。



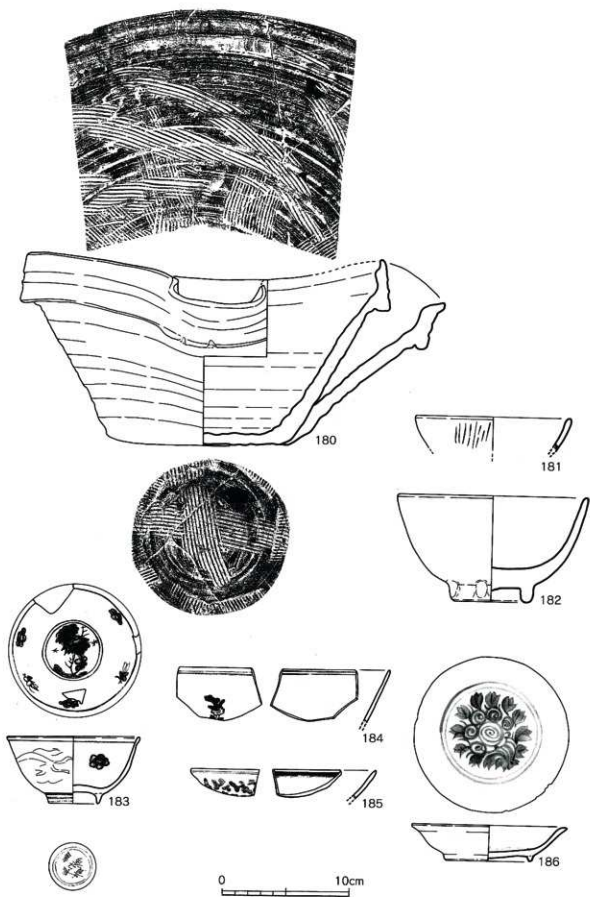
第29圖 大友75次SK052



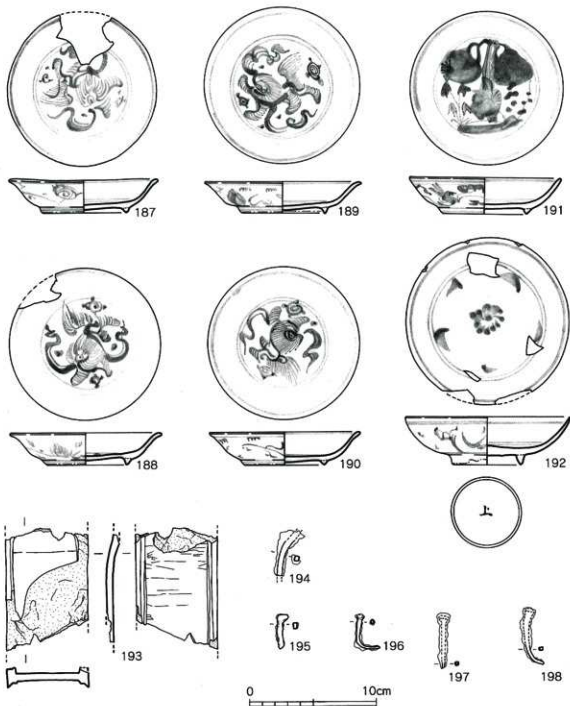
第30圖 大友75次SK052土器出土状況



第31图 大友75次SK052出土遺物(1)



第32图 大友75次SK052出土遺物(2)



第33図 大友75次SK052出土遺物(3)

(9) SK053

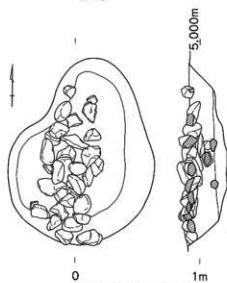
位置と検出面 SK053(第34図)は第I面で検出した。調査区の中央付近に位置し、本土坑の南側にSK051, SK052がみられる。

規模 土坑は南北に長軸をもつ不定形を呈するもので、その規模は長さ1.5m、幅0.7~1.2mである。深さは0.2~0.35mで、床面は平坦ではない。土坑内からは礫が多数出土した。礫は0.1~0.2mのもので、主に上層から出土した。遺物については、小破片の土器等が礫とともに出土したのみである。

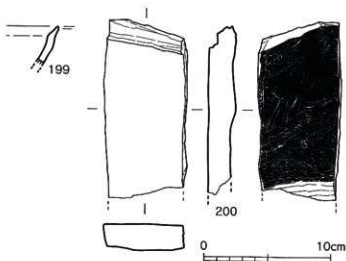
本土坑に近接するSK051, SK052からも礫が多数出土しており、これらと同様に、礫や廃棄物処理を目的としたものであることが分かる。16世紀後葉以降か。

出土遺物

出土遺物(第35図)は土師質土器と砥石がある。199は土師質土器杯の口縁部である。200は砥石で、一部を欠失する。長方形を呈するもので、両側辺を切断し整形されている。磨面は上面のみである。



第34図 大友75次SK053



第34図 大友75次SK053出土遺物

(10) SK054

検出面と位置 SK054は第1面の中央やや東寄りで検出された(第3図)。東西約7.5m、南北約4mの規模をもつ大型の不定形土坑である。掘り下げを行なった結果、バックフォアのバケット痕が確認され、現代の掘削土坑であることが判明した。

攪乱

以下、本土坑出土遺物(第36図)の紹介を行なう。

出土遺物

201~203は京都系土師器である。このうち、201、202は口径9cm程のものである。201は口縁部を掴み出す感じで、口縁部付近にナデが施されている。202は口縁付近にナデが施されているが、それほど強いものではない。203は復元口径11.4cmで、口縁部が大きく外反する。以上は16世紀後葉~末に比定される。

瓦質土器

204~206は瓦質土器である。このうち、204は火鉢である。口縁端部付近が肥厚し、口縁外面下に、細く低い隆帯に挟まれた4個単位の雷門スタンプ文が付される。16世紀前半の所産である。205は鉢である。口縁部を外方に折り曲げるもので、16世紀代に位置づけられる。206は14世紀代の土鍋である。

備前焼燗鉢

207~209は備前焼燗鉢である。207は口縁端部が内側に傾斜し、斜交摺目が見られる。16世紀後葉~末のものである。209も同様な口縁形態をしており、207と同様な時期と考えられる。208はやや古相に位置づけられる。

中国産磁器

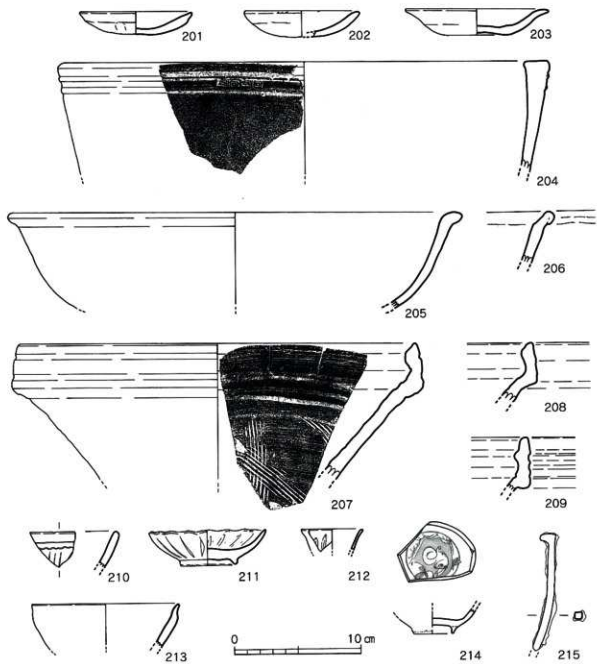
210~212、214中国産磁器である。210は青磁碗で、体部外面に退化した剣先蓮弁文が見られる。15世紀後半~16世紀の所産である。211は青白磁菊花皿で、16世紀代のものか。212は外面に青色の具須が残る。214は青花環である。底部は饅頭心タイプで、16世紀後葉以降のものか。

天目碗

213は瀬戸美濃系天目茶碗で、16世紀代の所産か

鉄製釘

215は鉄製釘である。



第36図 大友75次SK054出土遺物

(11) SK062

検出面と位置

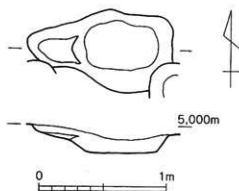
SK062 (第37図) は調査区東部の第II面で確認された。

規模

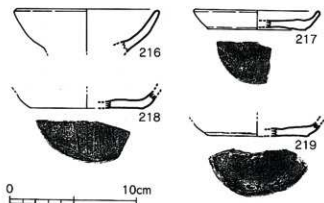
土坑は長軸を東西方向にもつ不定形で、SK477に切られる。規模は長さ1.15m、幅0.35~0.6m、深さ0.1~0.25mを測る。床面は東側に向かい深くなる。遺物は埋土中から土器片が散発的に出土した。

土師質土器

出土遺物(第38図)は土師質土器である。このうち216、218、219は坏である。216は口縁部資料で、体部が内湾気味である。218、219は坏底部で、いずれも糸切りである。217は小皿である。体部は斜方向に短く立ち上がる。以上は14世紀代の所産である。



第37図 大友75次SK062



第38図 大友75次SK062出土遺物

(12) SK069

位置と検出面

SK069 (第39図) は調査区南東部に位置し、第II面で確認された。

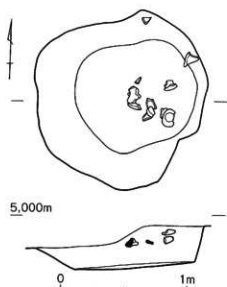
規模

土坑は不整形形を呈するもので、規模は径1.3~1.4mを測る。深さは0.2~0.3mで、床面は平坦である。壁の立ち上がりは、東側が急で、他はやや緩やかである。

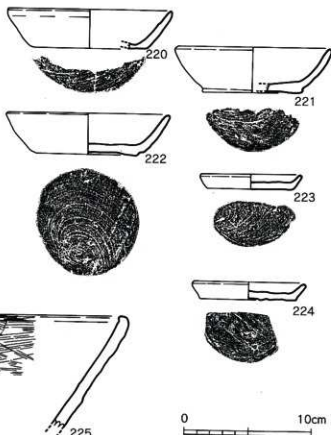
遺物は埋土中から散発的に出土した。大部分が破片資料で、床面からの出土は認められなかった。

土師質土器

出土遺物(第40図)は土師質土器と瓦質土器がある。220~224は土師質土器である。このうち220~222は環である。体部が斜方向に伸びるもの(220、222)と器高が高く体部がやや内湾気味のもの(221)がみられる。223、224は小皿である。両者とも、底部とあまり厚みが変わらない体部が



第39図 大友75次SK069



第40図 大友75次SK069出土遺物

斜めに立ち上がる。

瓦質土器

225は瓦質土器鉢である。体部は斜方向に伸び、口縁端部は丸くおさまられ、端部が内側にわずかに肥厚する。外面にはユビオサエがみられ、内面上半にはハケメが施される。

時期

以上の遺物は14世紀初に位置づけられる。

(13) SK073

位置と検出面

SK073(第41図)は、調査区北東部の第Ⅱ面において検出された。

規模

土坑は東西方向に長くのびるもので、東側は覆乱により切られている。また、西側についても遺構線が途中で途切れる。規模は、幅0.6~0.8m、現存長1.6mである。深さは0.1~0.15mで、床面は平坦ではない。

土師質土器環

出土遺物(第42図)のうち、226、227は糸切りの底部を有する土師質土器環である。226は体部の立ち上がり部が丸みをもつ、227は体部が直線的に立ち上がる。228は京都系土師器で、口縁部が外方に折れる。

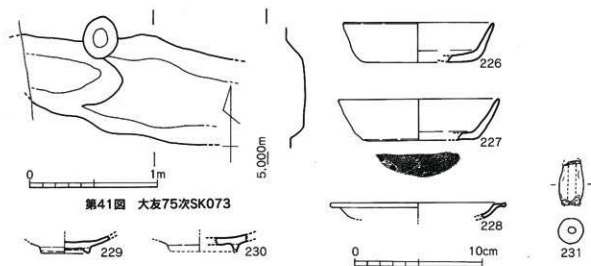
吉備系土師器

229は吉備系土師器椀底部で、低い高台が付される。230も断面三角形の高台が付く土師器椀である。

231は両端部が欠損する土鍾である。長さに比べ幅が広いもので、重量13.4gを測る。

時期

時的には14世紀初~前葉に位置づけられる。



第41図 大友75次SK073

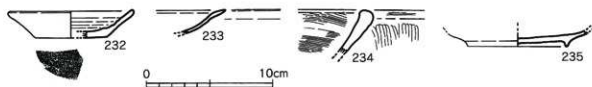
第42図 大友75次SK073出土遺物

(14) SK074、SK075、SK076、SK077

SK074、SK075、SK076、SK077(第44図)は調査区中央付近の第Ⅰ面から出土した。これらは近接した位置にあり、SK074はSK075に切られる。

SK074

SK074は不正方形を呈する。規模は1.0~1.1m×0.8mを測る。深さは0.05~0.1mと非常に浅いものである。本土坑の西側にSK075が位置しており、わずかに切られる。



第43図 大友75次SK074出土遺物

出土遺物

土坑床面
から径0.1
mの礫や土
器片等が出
土した。

出土遺物
(第43図)

のうち232
は、内面に
ロクロ痕を
残すもので、
底部は糸切
りである。

233は京都
系土師器で、
口縁部が外
方に折れる。
器壁は非常
に薄い。

234は瓦
質土器鉢で
ある。口縁
部は丸みを
もち、内面
が肥厚する。

外面には縦方向の粗いハケメが、また内面には細かな横方向のハケメが各々施される。

235は中国産白磁皿の底部である。高台は断面三角形の低いもので、畳付は露胎である。

以上のうち、234は14世紀の所産であるが、他は16世紀前葉におさまるものである。

SK075

SK075は、SK074を切る。楕円形基調の不定形を呈するもので、その規模は長さ0.9m、幅0.55m、深さ0.1mである。床面は平坦で、土坑内から目立った遺物は出土しなかった。

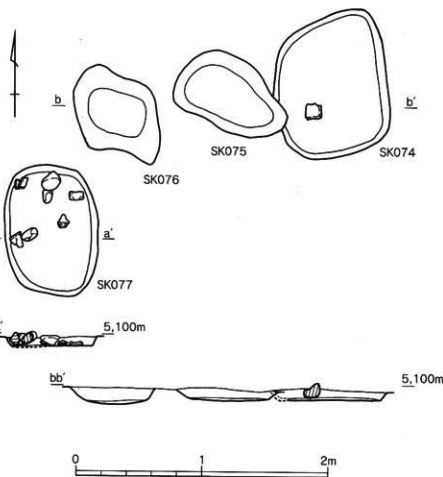
SK076

SK076はSK075の西側に位置する。方形基調の不定形を呈しており、その規模は0.6~0.7m×0.6mである。深さは0.1m余りと浅く、床面は緩やかにU字状を呈する。土坑内からは目立った遺物は出土しなかった。

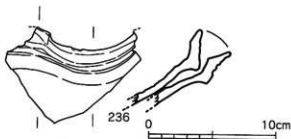
SK077

SK077はSK076の西南側に位置する。SK074、SK075、SK076が東西に直線的に並ぶのに対し、SK077はそのラインから外れる。土坑は楕円形を呈し、その規模は長さ1.0m、幅0.75mを測る。深さは0.1mと浅く、床面は平坦である。土坑内からは礫とともに若干の土器が出土した。

236(第45図)は備前焼摺鉢である。口縁端部が三角形気味なるもので、16世紀後葉~末に比定される。



第44図 大友75次SK074,SK075,SK076,SK077



第45図 大友75次SK077出土遺物

(15) SK083

位置と検出面

SK083(第46図)は、調査区の中央からやや西寄りに位置するもので、第I面において確認された。

切り合い関係

土坑は大型の不定形土坑で、北端を径0.8mの円形土坑であるSK086にわずかに切られる。

規模

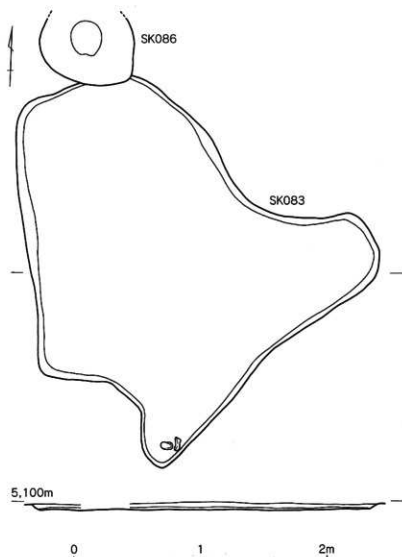
土坑の規模は、南北の最大長が約3.1m、東西の最大長が約2.8mを測る。深さは0.05mと、規模のわりには非常に浅い。床面は比較的平坦である。

遺物出土状況

土坑内からは目立った遺物の出土がほとんどなく、わずかに礫がみられるのみであった。

時期

土坑の時期については、時期を決定できる遺物が出土していないので不明であるが、16世紀末以降であろう。



第46図 大友75次SK083

(16) SK095

位置と検出面

SK095(第47図)は調査区北寄りに位置するもので、第II面から検出された。本土坑が確認された場所は、土坑や柱穴が密集している。そのため、いくつかの土坑と切り合い関係にある。本土坑の北側にはSK253とSK391が、また南側にはSK96とSK97が各々位置しており、いずれも本土坑が切っている。

規模

土坑は南北方向に長軸を有する長楕円形を呈しており、その規模は長さ1.75m、幅0.95mを測る。深さは0.4~0.5mで、床面は平坦ではない。

遺物出土状況

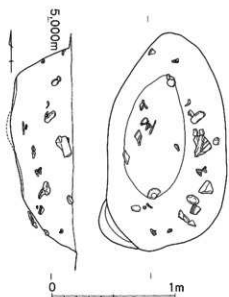
土坑内からは比較的多くの遺物が出土した。それらは破片資料が大半で、大部分は床面より浮いた状況で出土した。本土坑は廃棄物処理土坑的な性格を有しているものと考えられ、遺物も廃棄物と混ざり投棄されたものであろう。

出土遺物

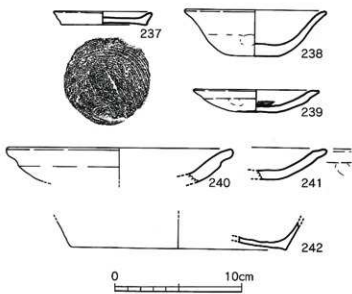
出土遺物(第48~50図)には、土師質土器、焼締陶器、中国産磁器、鉄製品、石製品などがある。

土師質土器

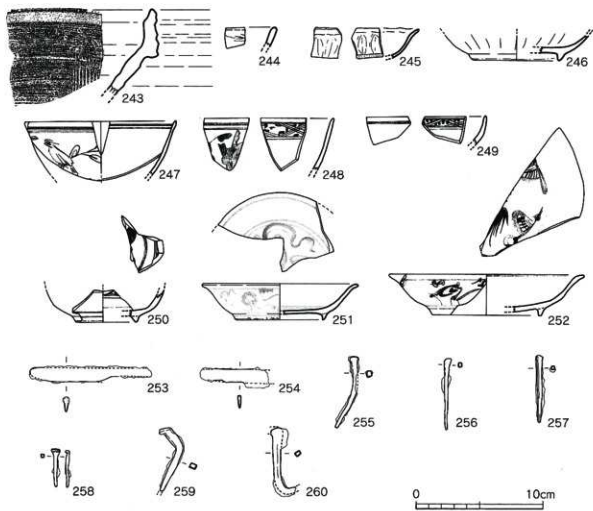
237~241は土師質土器である。237は底部糸切りの小皿である。口径7.6~7.8cmを測り、体部が短く垂直気味に立ち上がる。14世紀後半のものか。



第47图 大友75次SK095



第48图 大友75次SK095出土遺物(1)



第49图 大友75次SK095出土遺物(2)

京都系土師器 238～241は京都系土師器で、いずれも厚手のものである。238は京都系土師器には珍しい深い器形のもので、上半が大きく外反する。239～241は浅いもので、口縁付近に強いナデが施される。16世紀後葉～末に比定される。

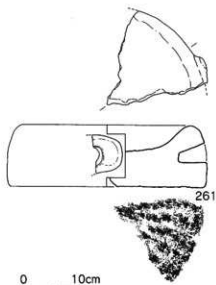
朝鮮王朝産 242は朝鮮王朝産陶器舟徳利底部である。243は備前焼摺鉢である。口縁形態から16世紀後葉～末に位置づけられる。

中国産磁器 244～252は中国産磁器である。244は青磁碗で、退化した雷文がみられる。245、246は青磁菊花皿である。247～252は青花である。247、248は小野正敏分類の碗E群、249が小野分類の皿E群、250が漳州窯系碗、251と252が小野分類の皿B群に相当する。

鉄製品 253～254は鉄製品である。253と254は刀子である。255～260は釘である。

石臼 1441は挽白の上臼である。側面に挽手穴がみられ、下面の目は粗い。

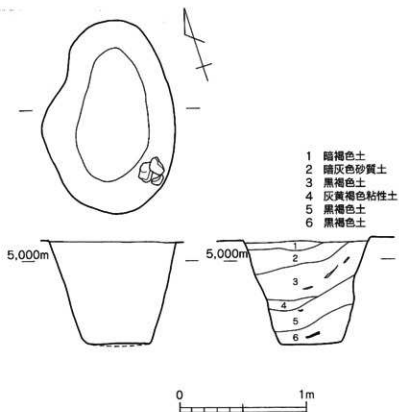
遺構の時期 以上の出土遺物から、本土坑の時期は16世紀後葉～末に位置づけられる。



第50図 大友75次SK095出土遺物(3)

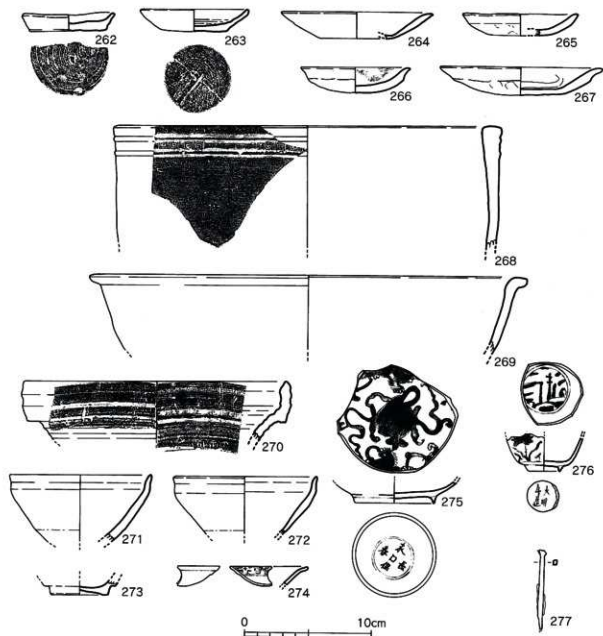
(17) SK098

位置と検出面 SK098 (第51図)は調査区中央部の北側において、第II面で検出された。いくつかの土坑と重複しているが、これらを切る。



第51図 大友75次SK098

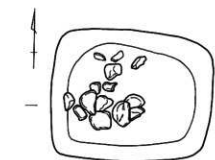
- 規模 土坑のやや不整形気味の楕円形を呈する。南北方向に長軸を有するもので、長さ1.5m、幅1.05mを測る。深さは0.8mと比較的深く、壁も垂直気味に立ち上がる。埋土は東側から埋没していった状況が観察される。本土坑の時期は、時期的には16世紀後葉～末に比定されよう。
- 遺構の時期
- 土師質土器 出土遺物（第52図）のうち、262～267は土師質土器である。262の土師質土器は口径7.2～7.4cmで、低い体部が斜方向に立ち上がる。15世紀にかかるとも。263は底部糸切りで、内面下半にロクロ痕がみられる。16世紀前葉の所産である。264～267は京都系土師器で、264は薄手で、16世紀前葉のもの、他は16世紀後葉～末に位置づけられる。
- 瓦質土器 268は瓦質土器火鉢、269は瓦質土器鉢である。いずれも16世紀代のものである。270は備前焼播鉢で、16世紀後葉に比定される。271～273は瀬戸美濃系天目碗である。274～276は中国景德鎮窯系青花である。274は小野正敏分類の皿B2群、275は小野分類皿E群、276は小環である。
- 陶磁器
- 鉄製釘 277は鉄製釘である。二寸釘に相当するものであろう。



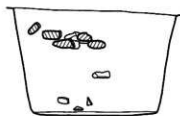
第52図 大友75次SK098出土遺物

(18) SK106

- 位置と検出面 SK106(第53図)は調査区の東南部に位置しており、第II面で検出された。
- 規模 土坑は方形基調の平面形で、南北方向が0.95~1.0m、東西方向が1.2~1.25mを測る。深さは0.8~0.85mで、比較的深めである。床面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。
- 遺物出土状況 土坑内の上層からは0.1~0.2mの礫が出土した。西側から流れ込んだ状況が読み取れる。その他、土器片などが出土したが、その多くは破片資料で、床面から浮いた状況である。
- 遺構の性格 本遺構は、廃棄物処理土坑としての性格を有するものと思われる。
- 出土遺物(第54、55図)には、土師質土器、瓦質土器、石製品などがある。
- 土師質土器 278は底部糸切りの土師質土器環である。口径は12.8cmを測り、体部は内湾気味を呈する。法量からみて、14世紀初~前葉に位置づけられよう。
- 土鍋 279~281は瓦質土器土鍋である。279は直線的に伸びる体部から、口縁部が短く外方に折れるものである。口縁端部はやや丸みをもち、口縁部内側上面はわずかに凹み気味である。外面はナデ、オサエがみられ、内面には横方向のハケメが施される。280も279と同様な器形、調整がみられるが、279に比べ口縁部が太めである。281も基本的に同様な形態であるが、口縁端部は丸みをたない。以上の土鍋は、古代以来続く口縁部が「く」の字状に折れるタイプのものである。口縁部に関しては、外方に折れる口縁部が小さくなり、折れがきつくなる方向で、時間軸の変化がみられる。これらは、14世紀の初~前葉に比定できる。
- 282は東播系の須恵質こね鉢、283は須恵質の甕で、外面に格子目タタキが施される。
- 石製未製品 284~287は石製品の未製品である。石材は淡赤褐色を呈するもので、赤間硯に使用される石材と酷似する。これらの形状、大きさは様々で、幅4~9cm、長さ9~22cmを測る。しかし、厚みについては3~4cmと同様な状況である。各資料とも金属製の工具による加工痕(トーン部)がみられる。それは鋸状の工具によるもので、長く直線的に痕跡が残る。その痕跡は、いずれも幅2.5~3.0cmである。
- 土坑の時期 以上から、本土坑の時期は14世紀初~前葉に位置づけられる。



5,000m

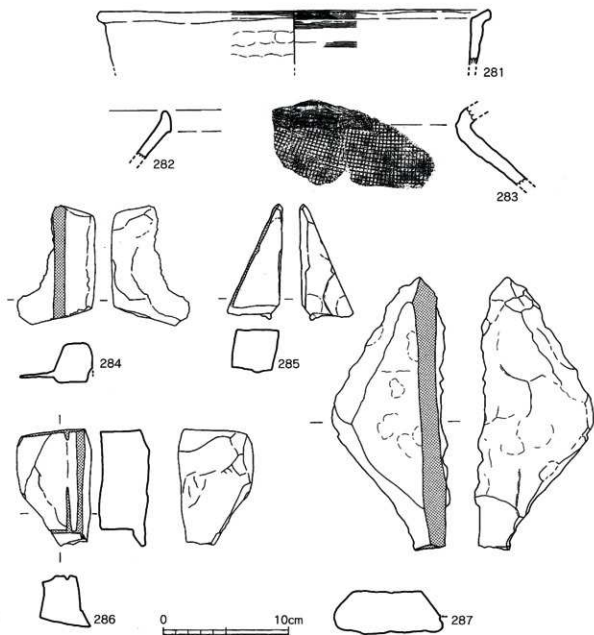


第53図 大友75次SK106



0 10cm

第54図 大友75次SK106出土遺物(1)



第55図 大友75次SK106出土遺物(2)

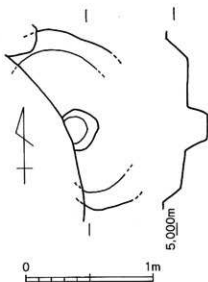
(19) SK124

位置と検出面 SK124 (第56図) は調査区東北部に位置するもので、第Ⅱ面で検出された。近世の大型不定形土坑のSK012や柱穴に切られる。

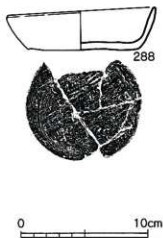
規模 土坑は楕円形基調を呈するものと思われる。南北方向に長軸をもつと推定され、長さ1.5mを測る。深さは0.2mで、床面は平坦である。

土坑内からの遺物出土は少量で、床面から浮いた状態であった。

土師質土器環 出土遺物 (第57図) として、288の土師質土器環がある。底部は糸切りで、口径11.8cmを測る。体部は比較的直立きみで、口縁部がやや尖り気味である。分量からみて、14世紀中葉前後に位置づけられよう。



第56図 大友75次SK124



第57図 大友75次SK124出土遺物

(20) SK130

位置と検出面 SK130 (第58図) は、調査区西端近くに位置するもので、第Ⅱ面から検出された。第Ⅱ面の中央部から西側にかけては、土坑や井戸などの大型の遺構が集中するが、他遺構との重複はみられない。大型遺構の同様な集中は第Ⅲ面でもみられ、本遺構と同位置の第Ⅲ面では大型の不定形土坑であるSK445が確認されている。

規模 土坑の平面形は不整形を呈する。規模は南北が2.9~3.4m、東西が2.7~2.8mを測り、概ね南北、東西に主軸をもつ。しかし、遺構ラインは直線的ではなく、場所によっては湾曲する。深さは0.2~0.25mで、床面は平坦ではなく緩やかな起伏がみられる。壁の立ち上がりは、急な箇所と緩やかな箇所がある。

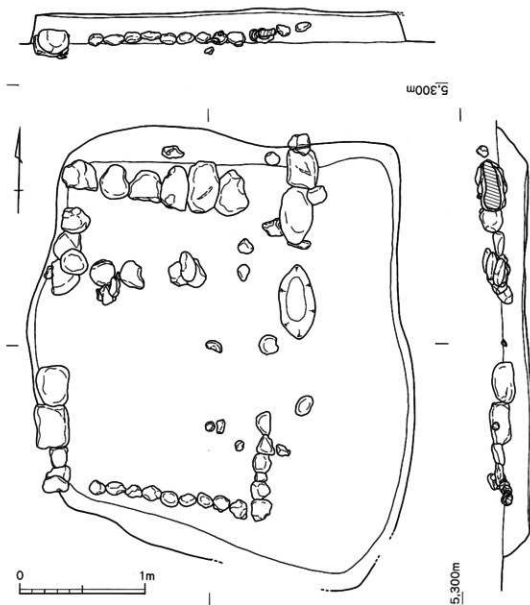
方形石列 また、土坑上面には方形の石列がみられる。石列のうち北側は、0.2×0.3~0.4mの石材の短辺を内側に揃えて並べている。これに対し西側と東側は、現状で石材の抜けがみられるが、0.15~0.2×0.15~0.4mの石材の長辺を内側に揃えて並べている。一方、南側と一部の東側は0.1~0.15mの比較的小型の礫を使用している。北側や西側等の大型石材列と南側等の礫列を比較すると、北側や西側等の大型石列の上面レベルがほぼ揃えられているのに対し、南側の礫列は0.1m程低い。東側の礫列をのぼすと大型石列の内側を沿うように続くことから、本来は大型石列の内側に礫列が巡らされていた可能性をもつ。このことから大型石列は、方形であったと想定して、内法で東西1.55m、南北2.35mの規模有したものであることが分かる。これらは、建物の基礎構造等の可能性を有する。

出土遺物 出土遺物(第59図)のうち、289~295は土師質土器である。289は底部糸切りで、内面にクロロ痕が残る。16世紀前葉のものである。290~295は京都系土師器で、比較的薄手である。若干幅があるものを含むが、16世紀中~後葉の中で捉えられる。(第244図にも出土遺物、説明173頁)

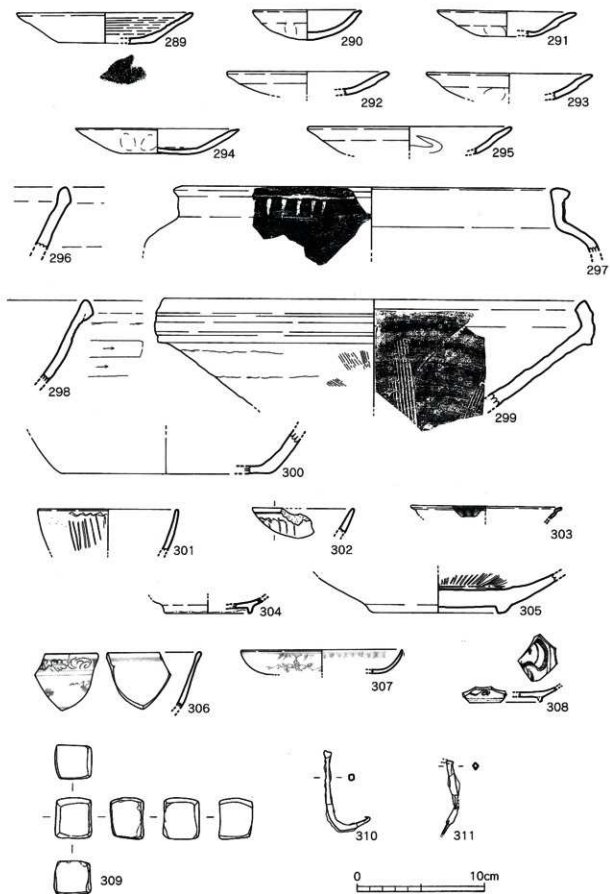
瓦質土器 296~298、300は瓦質土器である。296は鉢である。298は甕で、頸部が直立し、口縁端部上面が平坦になり、外側にやや張り出す。頸部にヘラ描きが施される。298は土鍋である。口径30cm以上の大型品と思われ、底部は丸底を呈するものである。口縁端部外側が肥厚し、外面に横方向のヘラケズリが施される。300は甕の底部である。

備前焼 299は備前焼鉢で、口縁部外面には凹線が2条施される。16世紀前葉のものである。

- 中国産磁器 301～308は中国産磁器である。301、302は剣先連弁文が外面に施されるもので、いずれも文様がかなり乱れたものである。303は翡翠釉の皿で、口縁部は外方に折れる。304は白磁皿底部である。305は青磁盤の底部である。306～308は青花である。いずれも景德鎮窯系で、306は小野正敏分類の碗D群、307は皿E群、308は皿B群に相当する。これら青花は、16世紀の後葉までにおさまるものである。
- 土製品 309は土製品で立方体を呈する。概ね一辺2.5cmを測るもので、各面に文様等は認められない。形態からみてサイコロの可能性が高い。
- 鉄製品 310、311は鉄製の釘である。両者とも、頭部を折り曲げ、断面方形を呈するものである。310はL字状にまがっているが、本来三寸釘に相当するものであろう。311は一部を欠くが、二寸釘に相当する。
- 遺構の時期 以上から、本遺構の時期は16世紀後葉に位置づけられる。



第58図 大友75次SK130



第59図 大友75次SK130出土遺物

(21) SK133

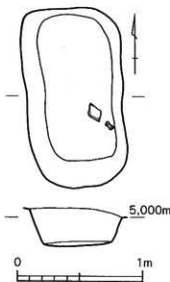
位置と検出面 SK133 (第60図)は調査区中央の北側F61区に位置しており、第Ⅱ面で確認された。本遺構の周辺には遺構が密集しており、南側に隣接しSK400があり、重複するSK172を切る。

規模 遺構の平面プランナは長方形を呈し、南北方向に長軸をもつ。規模は南北1.4m、東西0.75～0.8mである。深さは0.25～0.3mを測り、床面は比較的平坦である。

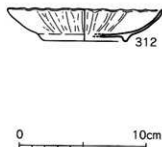
遺物出土状況 土坑内からの遺物の出土は散発的で、床面から浮いた状態で確認された。土坑の形態的には墓の可能性もあるが、人骨や明確な副葬品も検出されていないため断定できない。

土坑の時期 本土坑の時期は、出土遺物から16世紀後葉に位置付けられる。

出土遺物 青磁菊花皿 出土遺物(第61図)のうち、図示できるのは1点のみである。312は中国製青磁皿である。型押し成型の菊花皿で、復元口径12.3cm、高さ2.5cm、復元底径6.5cmを測るものである。



第60図 大友75次SK133



第61図 大友75次SK133出土遺物

(22) SK147

位置と検出面 SK147 (第63図)は調査区中央西側のD61・E61区に位置するもので、第Ⅱ面において検出された。

本遺構の周辺には比較的大型の遺構が密集しており、西側にはSK130が、また南側にはSK204とSK275がみられる。第Ⅱ面においてはこれらと切り合い関係はない。同じ場所の第Ⅲ面でも遺構の密集がみられ、本遺構の下からSK445やSK613などが検出されている。これらの遺構と上下の切り合い関係にあり、本遺構がこれらより後出することが分かる。

規模 遺構は南北方向に長軸を有する不定形を呈するもので、規模は南北1.6m、東西1.25mである。深さは0.1～0.2mで、床面は緩やかに起伏し、中央やや南寄りが最深部となる。

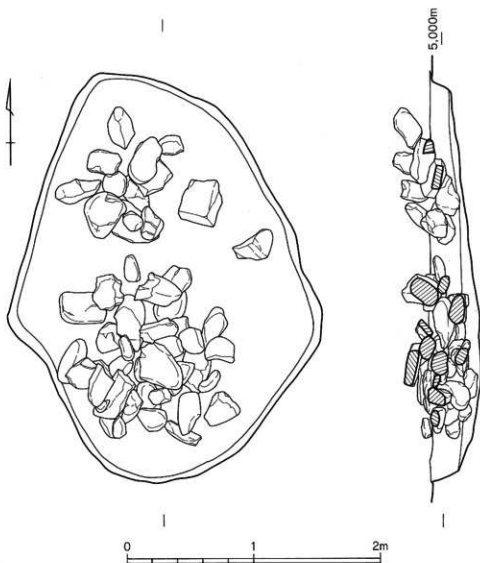
遺物出土状況 土坑内からは多数の礫が検出された。礫は大きく二つのまとまりとして捉えられる。北側の集石は5～10cmの礫で構成されており、床面から積み重なった状態で確認された。一方、南側集石は5～10cmの礫で構成されるものの、北側よりも規模が大きいの。この集積も北側同様に床面から積み重なった状況である。

出土遺物 出土遺物(第62図)は少なく、313は不明鉄製品である。断面三角形を呈する。

遺構の時期 遺構の時期は不明であるが、16世紀後葉以降と思われる。



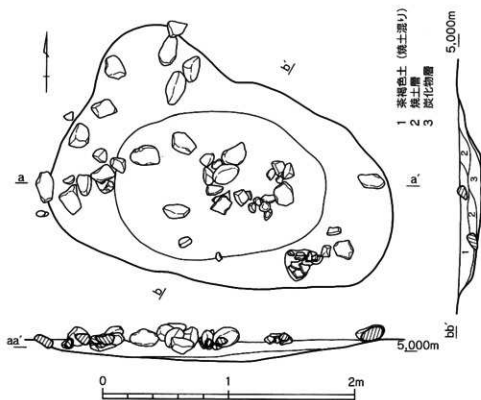
第62図 大友75次SK147出土遺物



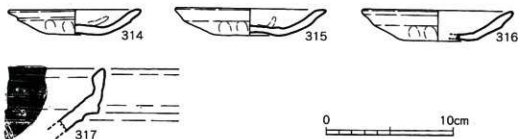
第63図 大友75次SK147

(23) SK148

- 位置と検出面 SK148 (第64図) 調査区中央部の南寄りE62区で確認されたもので、第Ⅱ面から検出された。他の遺構と重複しており、SE149とSE216を切る。
- 規模 遺構は不定形を呈し、東西方向に長軸をもつ。規模は東西2.7m、南北1.5~2.0mである。深さは0.05~0.15mで、中央部付近が緩やかに深くなる。
- 遺物出土状況 土坑内からは0.05~0.2mの礫が多数出土した。礫は数箇所にまとまる状況であるが、いずれも床面から浮いた状態である。礫とともに京都系土師器などの遺物も出土した、完形品なども含まれるが、やはり床面から浮いた出土状態であった。
- 出土遺物 出土遺物(第65図)のうち、314~316は京都系土師器である。314と315いずれも完形品で、314が口径9.9~10.2cm、315が口径11.5~11.7cmを測る。16世紀後葉~末に比定されよう。317は備前焼播鉢である。口縁端部上面が内傾し、口縁外面に凹線がみられる。16世紀前葉~中葉に比定される。
- 土坑の時期 以上から、本土坑の時期は16世紀後葉~末に位置づけられる。



第64図 大友75次SK148



第65図 大友75次SK148出土遺物

(24) SK152、SK265、SK357、SK405

位置と検出面 SK152、SK265、SK357、SK405 (第66図) は調査区中央やや西寄りのE61・E62区に位置し、第II面で確認された。これらは、東西方向に連続して並び、前後関係はSK357・SK405→SK152→SK265である。以下の出土遺物から、これらの遺構は16世紀後葉に位置づけられる。

SK152 SK152は東西方向に長軸をもつ不定形で、東西1.9m、南北0.9～1.1m、深さ0.2mである。わずかに土器片が出土したのみである。

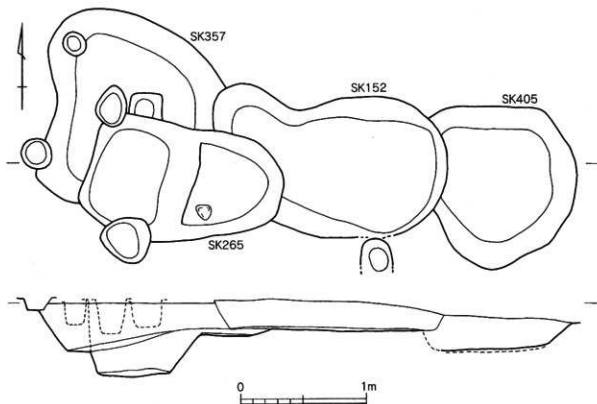
SK265 SK265も東西報告に長軸をもつ不定形で、東西1.5m、南北0.9m、深さ0.2～0.6mである。床面は二段になっており、西側が深い。土坑内からは土師質土器片などが出土した。

SK357 SK357は円形基調の不正形で、南北が推定1.6m、東西が推定1.3～1.5mである。深さは0.2～0.4mで西に向かい深くなる。土坑内からは、土器片がわずかに出土した。

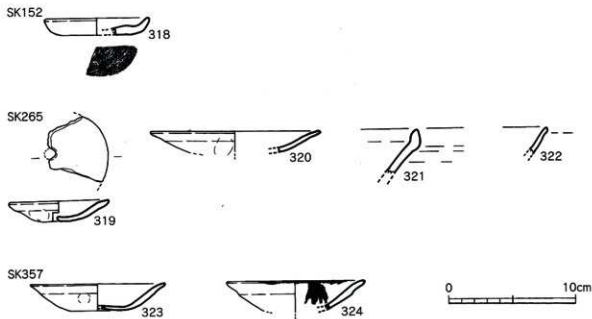
SK405 SK405は円形を呈するもので、径1.2～1.3m、深さ0.25mを測る。

出土遺物 出土遺物 (第67図) のうち318 (SK152) は土師質土器小皿で14世紀代のもの。319～322 (SK265)

のうち319、320は京都系土師器で、319には中央部に焼成後の穿孔がある。320はやや古相を呈するが、319は16世紀後葉に比定されよう。321は東播系こね鉢、322は青磁碗で、口縁部がわずかに端反り気味である。15、16世紀のものであろう。323、324(SK357)は京都系土師器である。324は煤の付着が顕著である。323はやや古相であるが、324は16世紀後葉の所産である。



第66図 大友75次SK152,SK265,SK357,SK405



第67図 大友75次SK152,SK265,SK357出土遺物

(25) SK153

位置と検出面 SK153 (第68図)は調査区中央やや東よりのF62区かに位置し、第Ⅱ面から検出された大型の不定形土坑である。

規模 土坑は北側を攪乱土坑SK054に切られ、南側が調査区外に及ぶため全容は明らかではない。規模は東西が2.5~2.8m、南北3.2m以上である。深さ0.2~0.35mを測り、床面は西側で大きく段がつき深くなる。最深部の面は東から西に向かい傾斜する。

土坑内の南側を中心に0.05~0.2cm大の礫がみられる。いずれも床面から浮いた状態である。

出土遺物 出土遺物(第69、70図)のうち、325、326は京都系土師器である。326は深い器形で、16世紀後葉~末に位置づけられよう。

瓦器碗 327、328は瓦器碗である。327は畿内の和泉型と思われ、内面にヘラミガキがみられる。328は東国東型の口縁部であろう。332は吉備系土師器碗の底部で、低い高台が付される。

瓦質土器 329~336は瓦質土器である。329、330は土錆と思われ、内外面にハケメが施される。331は甕である。333は鉢、324は防長系播鉢の口縁部である。335、336は火鉢である。

備前焼 337~341は備前焼である。337は壺で、16世紀代のもの。338~340は甕である。338は口縁部の玉縁があまり発達していない。339、340は口縁外面に凹線がみられるもので、16世紀末。

343は瀬

戸美濃系天目茶碗の底部である。

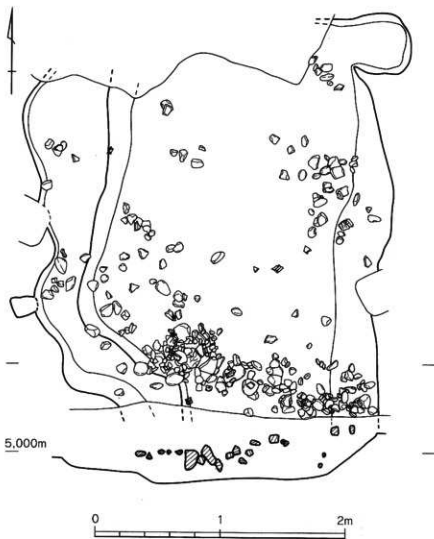
中国産磁器

342、344

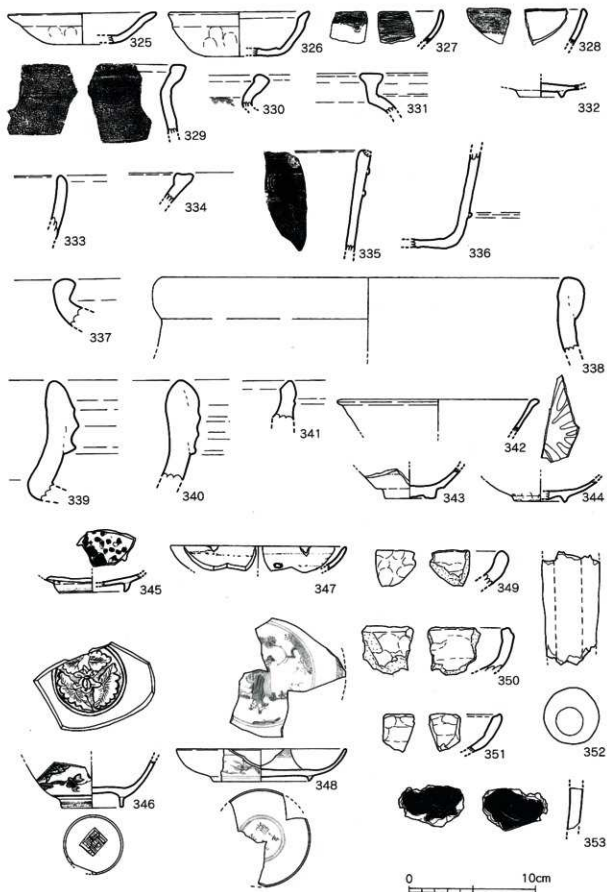
~348は中国産磁器である。331は白磁碗で口縁端部が外方に折れる。12世紀代のもの。344は青磁の碗で内面に文様が施される。

青花

345~348は中国産青花である。345、346は景德鎮窯系の碗で、345は小野正敏分類の碗C群、346は小野分類の



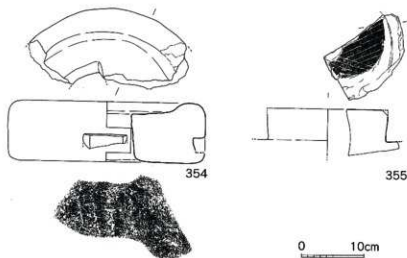
第68図 大友75次SK153



第69圖 大友75次SK153出土遺物(1)

碗E群に各々相当する。347、348は小野分類の皿E群に相当するが、347は〇州窯系、348は景德鎮窯系である。

- 埴塙 349～351は埴塙である。いずれも外面にはユビオサエがみられ、内面はナデにより仕上げられている。著しい二次被熱を受けており、350の内面から口縁部外面にかけては溶解物が付着している。
- 釉羽口 352は釉の羽口である。先端部、基部とも欠くものであるが、現存長9.0cm、最大幅4.5cmを測る。内径は2.3cmで、口径はあまり大きくない。全体に二次被熱が著しい。
- 353は滑石製土鍋の再利用用品で、3.2×5.2cmを測る。外面には、土鍋製作時縦方向のケズリ痕が残る。破片を再利用し温石として使用したと推定され、破断面は丁寧に磨かれている。外面には煤状付着物がみられる。
- 石臼 354、355は石臼である。354は挽臼の上臼である。天場はわずかに傾斜し、中央からはずれた位置に供給口がある。供給口の全容は残存していないが、上面観方形を呈するものと思われる。側面下部に挽き手穴がみられる。下面の目は摩滅が著しく残りがよくない。355は茶臼の下臼である。
- 以上の遺物から、本遺構の時期は16世紀後葉～末に位置づけられよう。



第70図 大友75次SK153出土遺物(2)

(26) SK171

位置と検出箇所 SK171(第71図)は調査区西南部のD62区に位置するもので、第Ⅱ面において検出された。他の遺構と重複しており、SK269とSK270を切っている。

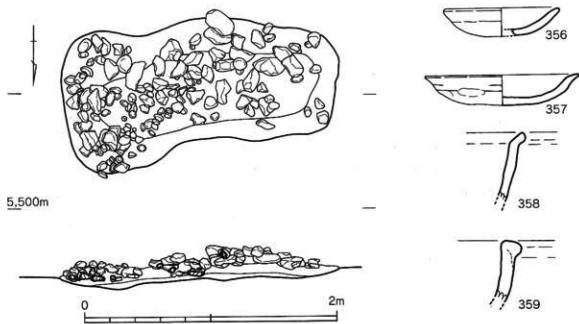
規模 本土坑は東西方向長軸をもつ不定形で、その規模は長さ2.2m、幅0.9～1.1m、深さ0.1～0.15mである。床面は緩やかな起伏をもち、全体が皿状をなす。

土坑内からは、5～20cm大の碟が多数検出された。碟はすべて床面から浮いた状態であった。

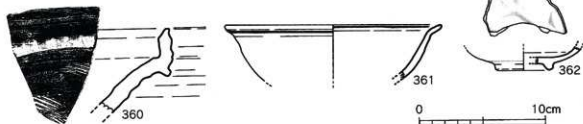
京都系土師器 出土遺物(第72図)のうち、356、357は京都系土師器である。両者とも厚手で、356は復元口径9.2cmを測るもので、口縁部は外反しない。357は復元口径12.2cmで、口縁下に強いナデが施され、口縁が外反する。これらは、16世紀後葉～末に比定されよう。

備前焼 358、359は瓦質土器である。358は土鍋である。くの字状の口縁を有するもので、口縁部が短く外方に折れる。時期的には、14世紀初のものである。359は鉢で、口縁端部が外側に肥厚する。16世紀代のものか。

360は備前焼摺鉢である。口縁端部は三角形状を呈し、外面には凹線が施される。内面の摺目は一部しか残存しないが、斜交をなすものと思われる。



第71図 大友75次SK171



第72図 大友75次SK171出土遺物

青花 361, 362は中国産青花である。361は漳州窯系の口縁端反りの碗である。口縁内外面に界線が1条ずつ施されるのみで、体部には文様は描かれていない。362は漳州窯系の碗と思われる。見込み部には草花文が描かれる。

土坑の時期 以上の遺物から、本土坑の時期は16世紀後葉～末に位置づけられる

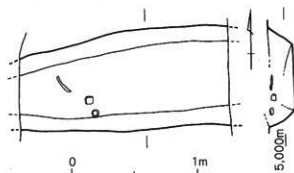
(27) SK178

位置と検出面 SK178(第73図)は調査区東部の中央G62区に位置するもので、第Ⅱ面から検出された。SK210と重複しており、これを切る。このほか周辺には、柱穴がみられる。

規模 土坑は東西方向に長いもので、東西の端は不明である。規模は現存長が1.7m、幅が0.6～0.8mを測る。深さは0.2mで、平坦な床面を呈する。

出土遺物 出土遺物(第248図)のうち、1146は土師質土器小皿である。口径3.9cmを測る小型品で、底部は糸切りである。体部の立ち上がりはシャープである。1147は鉄製刀子である。先端と基部を欠く。

土坑の時期 以上の遺物から本土坑の時期は、16世紀代に位置づけられる。



第73図 大友75次SK178